2026年11月27日
全国商工会連合会

小規模企業景気動向調査　［２０２６年１０月期調査］

～需要は堅調も、コスト上昇で収益改善が進まない小規模企業景況～

＜産業全体＞

10月期の産業全体の景況は、売上額DIがわずかに低下、資金繰りDIがわずかに改善、採算DI・業況DIは不変となった。需要の底堅さがみられる一方、原材料価格の高騰や最低賃金の引き上げに伴う人件費の増加が収益を圧迫している。価格転嫁についても、顧客離れへの懸念や取引先との交渉の難しさから十分に進められないとの声が多く、需要の底堅さが収益改善に結び付きにくい状況が続いている。

DI	9月	10月	前月比	前年同月比
売上額	3.7	2.8	▲ 0.9	▲ 2.2
採算	▲ 21.7	▲ 21.6	0.1	▲ 2.8
資金繰り	▲ 18.1	▲ 17.4	0.7	▲ 2.4
業況	▲ 17.9	▲ 17.8	0.1	▲ 3.3

＜製造業（食料品、繊維、機械・金属）＞機械・金属を中心に受注は堅調も、価格転嫁と人材確保に苦慮する製造業

製造業は、売上額DI・業況DIがわずかに低下、採算DIは不変、資金繰りDIはわずかに改善となった。機械・金属関連では、半導体や自動車関連を中心に堅調な受注が続いている。設備投資を検討する動きもみられる一方、融資金利の上昇や資金不足から投資に踏み切れないとの声もある。また、原材料価格の高止まりやさらなる上昇への懸念が幅広い業種で聞かれるほか、後継者不在による廃業もみられるなど、価格転嫁や人材確保が引き続き大きな課題となっている。

DI	9月	10月	前月比	前年同月比
売上額	11.4	10.0	▲ 1.4	3.3
採算	▲ 19.9	▲ 20.0	▲ 0.1	0.2
資金繰り	▲ 16.7	▲ 15.5	1.2	1.6
業況	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 1.1	2.0

＜建設業＞受注は堅調も、人手不足と経費の上昇が収益改善の足かせとなる建設業

建設業は、売上額DI・採算DI・業況DIが不変、資金繰りDIは小幅に低下となった。公共工事、民間工事ともに需要はおおむね堅調であるものの、人手不足により受注機会を十分に生かせず、受注を断念するケースもみられる。また、受注を確保できても、資材価格や人件費の上昇が収益を圧迫し、利益を確保しにくいとの声が挙がっている。天候不順による工期の遅れから資金繰りを懸念する声もあり、堅調な需要が収益や業況の改善に結び付きにくい状況が続いている。

DI	9月	10月	前月比	前年同月比
売上額	1.2	1.2	0.0	▲ 8.1
採算	▲ 24.7	▲ 24.7	0.0	▲ 7.5
資金繰り	▲ 18.9	▲ 21.4	▲ 2.5	▲ 4.9
業況	▲ 20.0	▲ 19.6	0.4	▲ 8.0

＜小売業（衣料品、食料品、耐久消費財）＞イベント・観光需要がみられるも、仕入単価の高騰に苦慮する小売業

小売業は、売上額DIが小幅に低下、採算DI・資金繰りDIが不変、業況DIはわずかに低下となった。食料品では、イベントや観光需要、地域商品券の効果により、売上が増加した地域がみられた。一方、仕入単価の上昇が続くなか、消費者の節約志向などから販売価格への転嫁が難しいとの声が多い。酒類、エアコンなどの一部商品では制度改正を見据えた駆け込み需要もみられたものの、全体の売上や業況の改善には至らず、厳しい経営環境が続いている。

DI	9月	10月	前月比	前年同月比
売上額	2.8	▲ 0.9	▲ 3.7	▲ 1.9
採算	▲ 23.9	▲ 24.2	▲ 0.3	▲ 1.7
資金繰り	▲ 20.1	▲ 20.3	▲ 0.2	▲ 4.0
業況	▲ 21.5	▲ 23.4	▲ 1.9	▲ 3.6

＜サービス業（旅館、クリーニング、理・美容）＞需要は堅調も、人件費の負担増加が収益改善の重荷となるサービス業

サービス業は、売上額DI・採算DIがわずかに改善、資金繰りDI・業況DIは小幅に改善となった。旅館業では需要が堅調に推移している一方、人手不足により受け入れを制限せざるを得ないケースもみられる。また、最低賃金の引き上げに伴う人件費増が収益を圧迫し、需要の堅調さが利益の確保につながりにくいとの声も挙がっている。人手不足が各業種に共通する課題となるなか、クリーニング業や理・美容業では、顧客の節約志向による来店頻度の低下もみられ、収益確保が難しい状況が続いている。

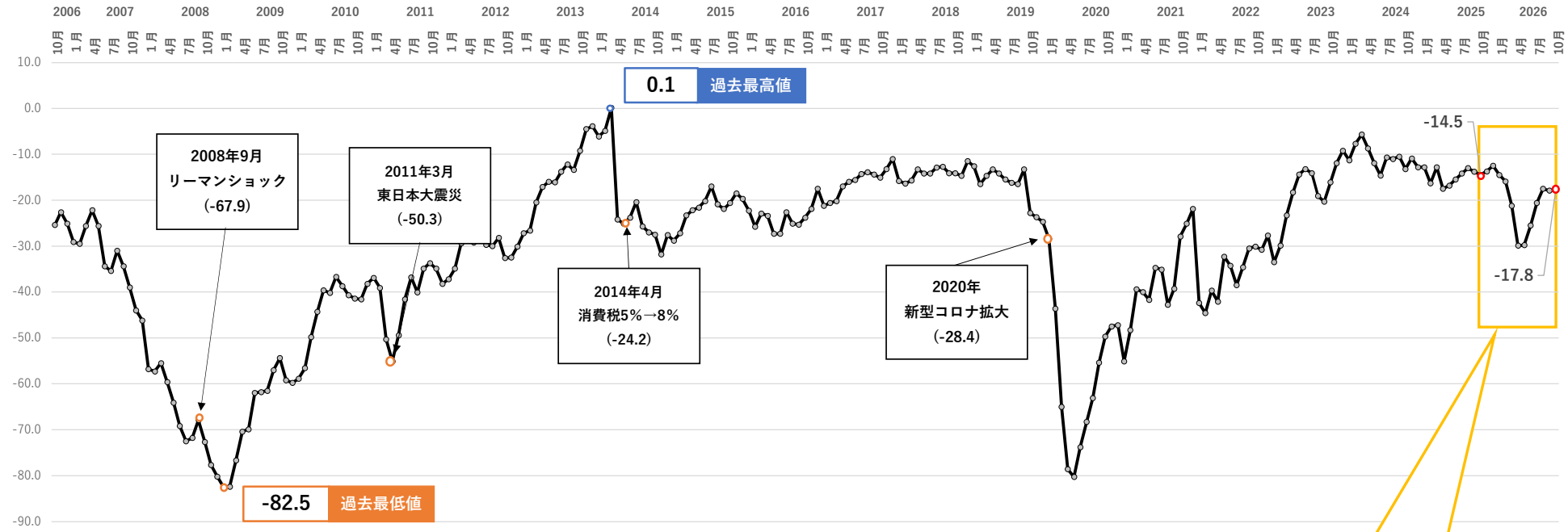
DI	9月	10月	前月比	前年同月比
売上額	▲ 0.4	0.9	1.3	▲ 2.1
採算	▲ 18.3	▲ 17.6	0.7	▲ 2.5
資金繰り	▲ 16.6	▲ 12.5	4.1	▲ 2.1
業況	▲ 15.8	▲ 13.0	2.8	▲ 3.7

調査概要

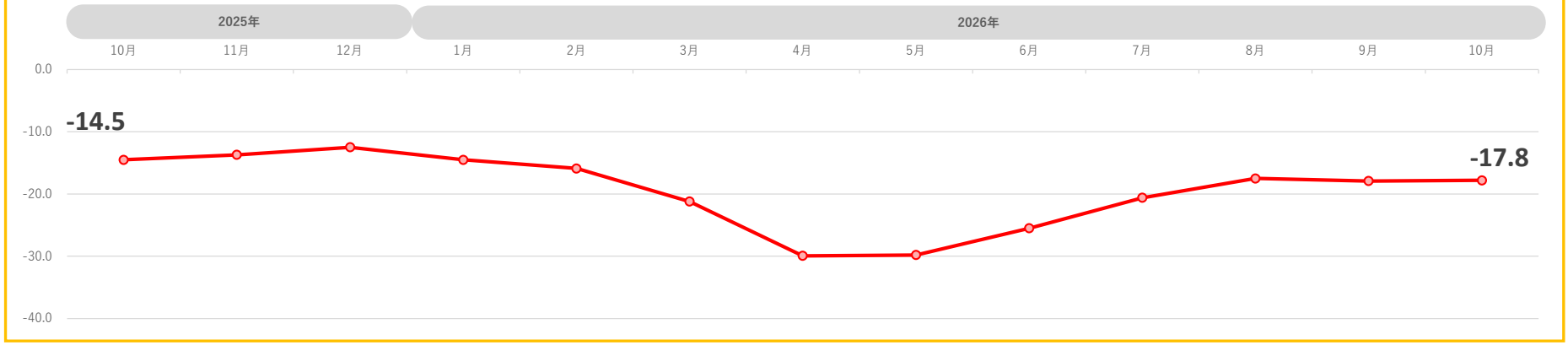
・調査対象：全国303商工会の経営指導員（有効回答数：239/回答率78.9%）
・調査時点：2026年10月末
・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
※ DI（景気動向指数）は各調査項目について、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。

中小企業問題研究所 担当：渡辺　〒100-0006 千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19F TEL：03-6268-0087 MAIL：chusho@shokokai.or.jp

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去２０年のトレンド ～



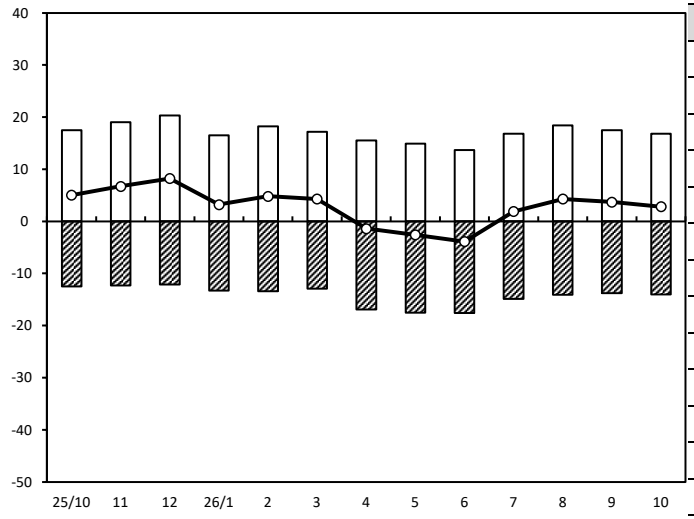
産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査(2026年10月期)

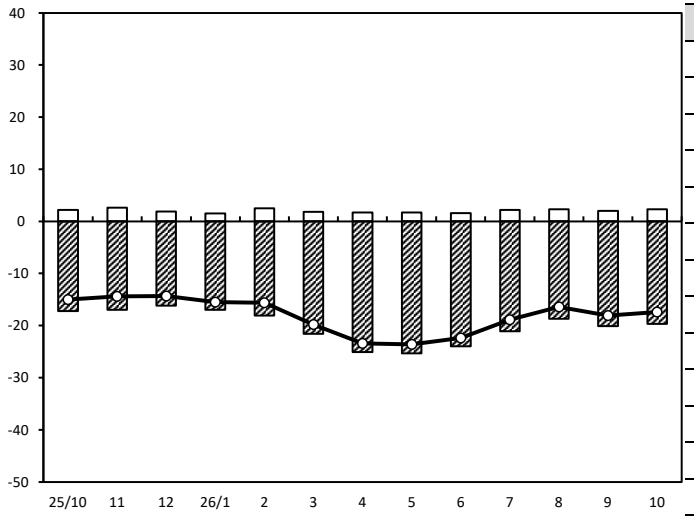
産 業 全 体(前年同月比)

売上額



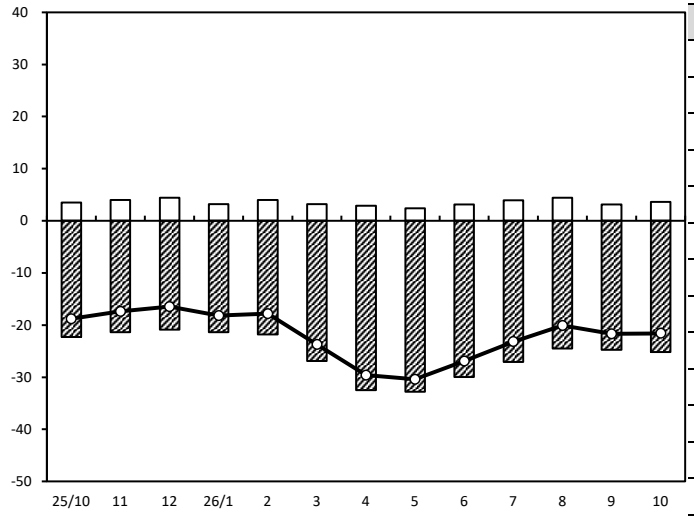
年/月	増加	減少	DI
25/10	17.5	-12.5	5.0
11	19.0	-12.3	6.7
12	20.3	-12.1	8.2
26/1	16.5	-13.3	3.2
2	18.2	-13.4	4.8
3	17.2	-12.9	4.3
4	15.5	-16.9	-1.4
5	14.9	-17.5	-2.6
6	13.7	-17.6	-3.9
7	16.8	-14.9	1.9
8	18.4	-14.1	4.3
9	17.5	-13.8	3.7
10	16.8	-14.0	2.8

資金繰り



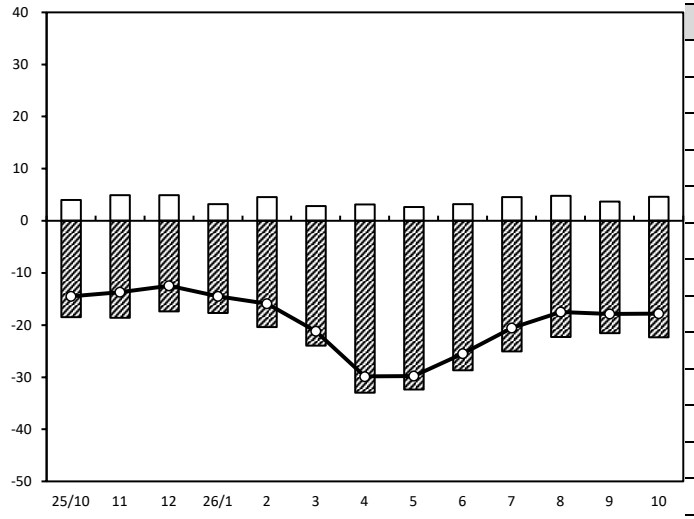
年/月	増加	減少	DI
25/10	2.2	-17.2	-15.0
11	2.6	-17.0	-14.4
12	1.9	-16.2	-14.3
26/1	1.5	-17.0	-15.5
2	2.5	-18.1	-15.6
3	1.8	-21.6	-19.8
4	1.7	-25.1	-23.4
5	1.7	-25.3	-23.6
6	1.6	-24.0	-22.4
7	2.2	-21.1	-18.9
8	2.3	-18.7	-16.4
9	2.0	-20.1	-18.1
10	2.3	-19.7	-17.4

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.5	-22.3	-18.8
11	4.0	-21.4	-17.4
12	4.4	-20.9	-16.5
26/1	3.2	-21.4	-18.2
2	4.0	-21.8	-17.8
3	3.2	-26.9	-23.7
4	2.9	-32.5	-29.6
5	2.4	-32.8	-30.4
6	3.1	-30.0	-26.9
7	3.9	-27.1	-23.2
8	4.4	-24.5	-20.1
9	3.1	-24.8	-21.7
10	3.6	-25.2	-21.6

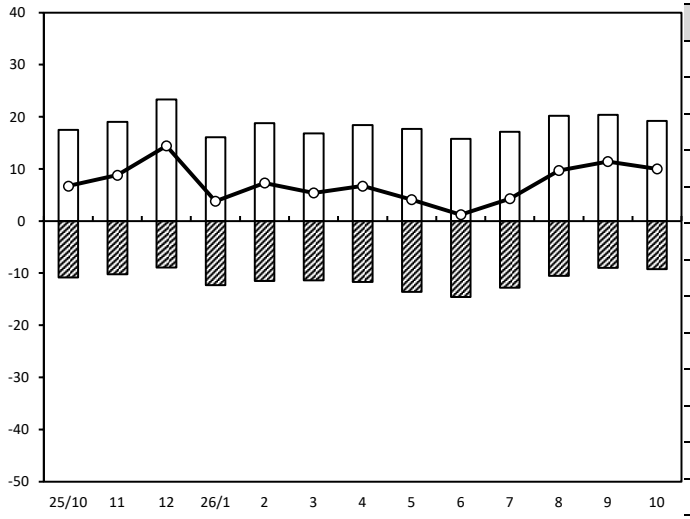
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	4.0	-18.5	-14.5
11	4.9	-18.6	-13.7
12	4.9	-17.4	-12.5
26/1	3.2	-17.7	-14.5
2	4.5	-20.4	-15.9
3	2.8	-24.0	-21.2
4	3.1	-33.0	-29.9
5	2.6	-32.4	-29.8
6	3.2	-28.7	-25.5
7	4.5	-25.1	-20.6
8	4.8	-22.3	-17.5
9	3.7	-21.6	-17.9
10	4.6	-22.4	-17.8

製 造 業(前年同月比)

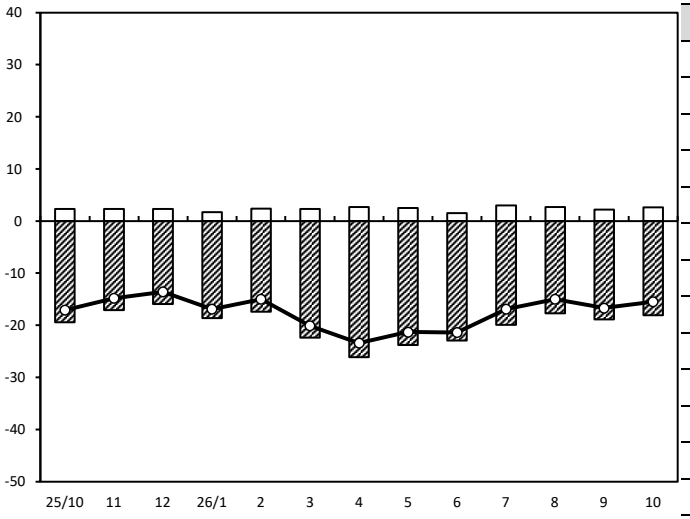
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/10	17.5	-10.8	6.7
11	19.0	-10.2	8.8
12	23.3	-8.9	14.4
26/1	16.1	-12.3	3.8
2	18.8	-11.5	7.3
3	16.8	-11.4	5.4
4	18.4	-11.7	6.7
5	17.7	-13.6	4.1
6	15.8	-14.6	1.2
7	17.1	-12.8	4.3
8	20.2	-10.5	9.7
9	20.4	-9.0	11.4
10	19.2	-9.2	10.0

(年月)

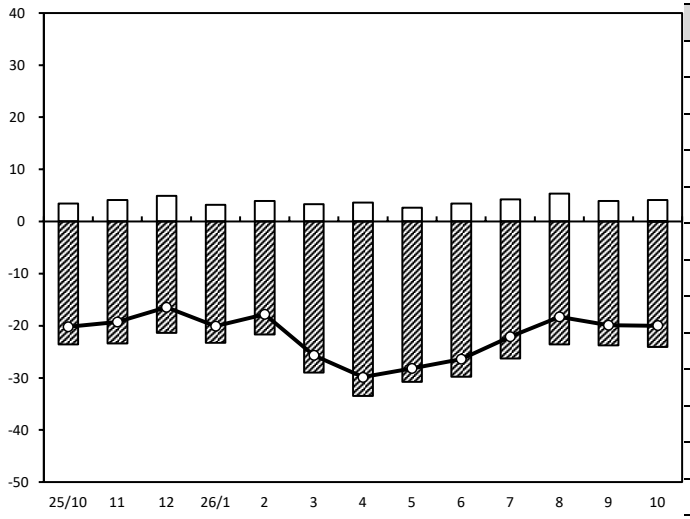
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/10	2.3	-19.4	-17.1
11	2.3	-17.1	-14.8
12	2.3	-15.9	-13.6
26/1	1.7	-18.6	-16.9
2	2.4	-17.4	-15.0
3	2.3	-22.4	-20.1
4	2.7	-26.1	-23.4
5	2.5	-23.8	-21.3
6	1.5	-22.9	-21.4
7	3.0	-19.9	-16.9
8	2.7	-17.7	-15.0
9	2.2	-18.9	-16.7
10	2.6	-18.1	-15.5

(年月)

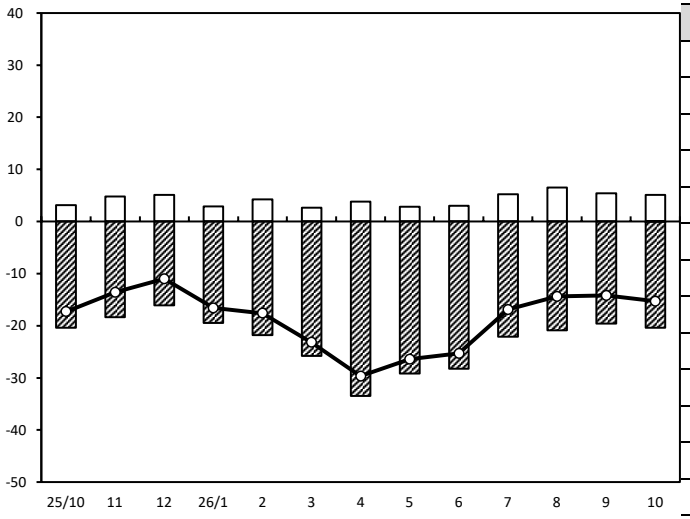
採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.4	-23.6	-20.2
11	4.1	-23.4	-19.3
12	4.9	-21.4	-16.5
26/1	3.2	-23.3	-20.1
2	3.9	-21.7	-17.8
3	3.3	-29.0	-25.7
4	3.6	-33.5	-29.9
5	2.6	-30.8	-28.2
6	3.4	-29.8	-26.4
7	4.2	-26.3	-22.1
8	5.3	-23.6	-18.3
9	3.9	-23.8	-19.9
10	4.1	-24.1	-20.0

(年月)

業界の業況

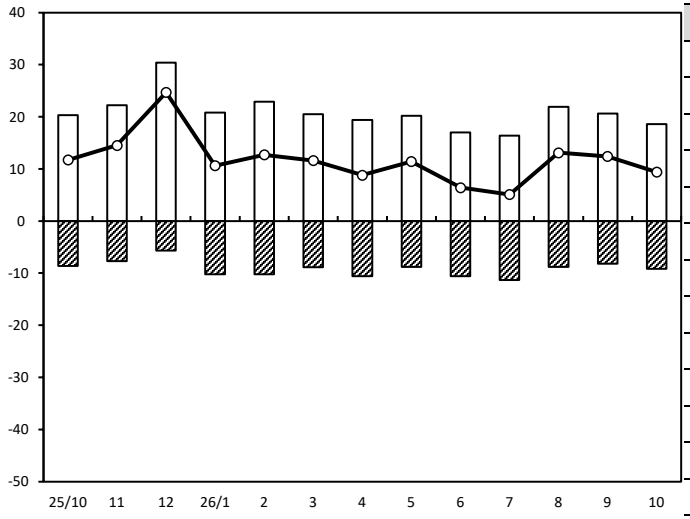


年/月	増加	減少	DI
25/10	3.1	-20.4	-17.3
11	4.8	-18.4	-13.6
12	5.1	-16.1	-11.0
26/1	2.9	-19.5	-16.6
2	4.2	-21.8	-17.6
3	2.6	-25.8	-23.2
4	3.8	-33.5	-29.7
5	2.8	-29.2	-26.4
6	3.0	-28.3	-25.3
7	5.2	-22.1	-16.9
8	6.5	-20.9	-14.4
9	5.4	-19.6	-14.2
10	5.1	-20.4	-15.3

(年月)

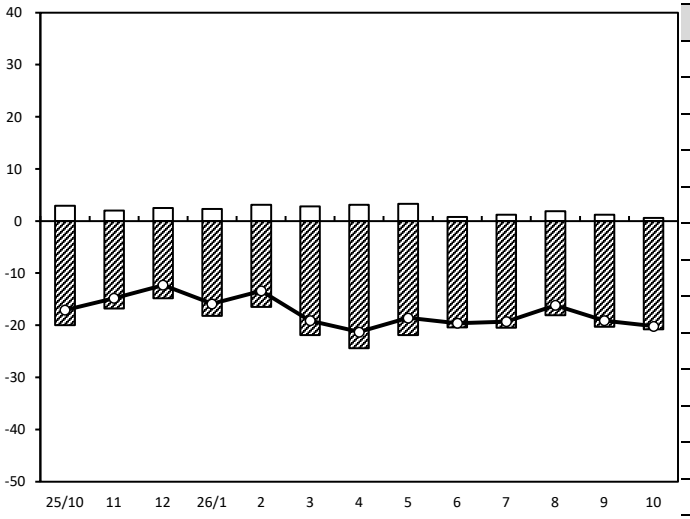
製 造 業【食料品】（前年同月比）

売上額



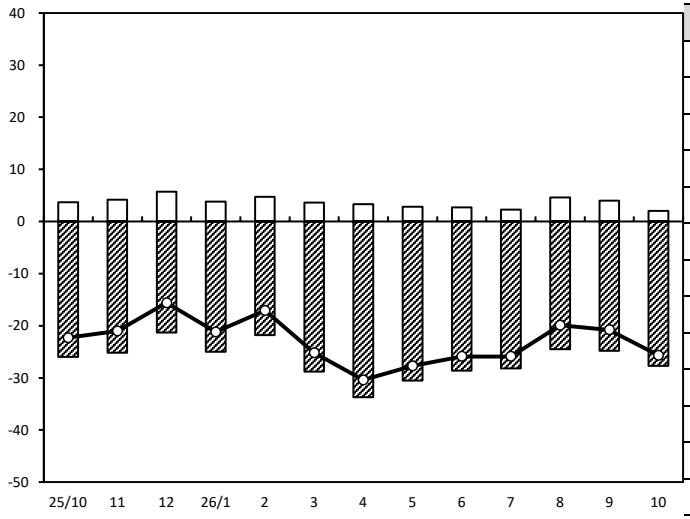
年/月	増加	減少	DI
25/10	20.3	-8.6	11.7
11	22.2	-7.7	14.5
12	30.4	-5.7	24.7
26/1	20.8	-10.2	10.6
2	22.9	-10.2	12.7
3	20.5	-8.9	11.6
4	19.4	-10.6	8.8
5	20.2	-8.8	11.4
6	17.0	-10.6	6.4
7	16.4	-11.3	5.1
8	21.9	-8.8	13.1
9	20.6	-8.2	12.4
10	18.6	-9.2	9.4

資金繰り



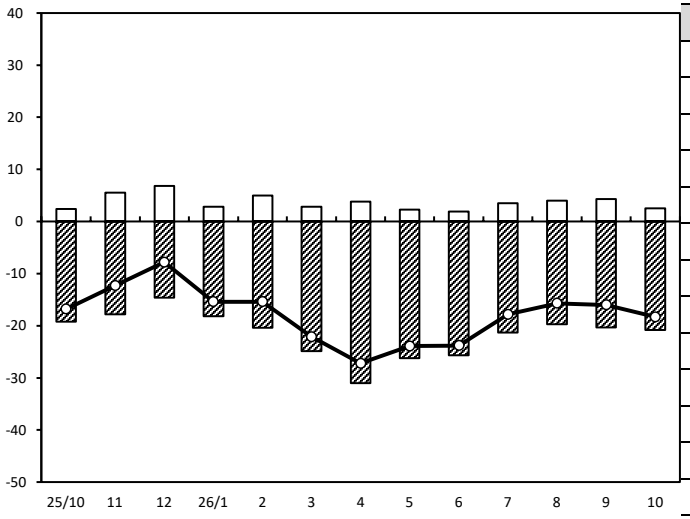
年/月	増加	減少	DI
25/10	2.9	-20.0	-17.1
11	2.0	-16.8	-14.8
12	2.5	-14.8	-12.3
26/1	2.3	-18.2	-15.9
2	3.1	-16.5	-13.4
3	2.8	-21.9	-19.1
4	3.1	-24.4	-21.3
5	3.3	-21.9	-18.6
6	0.8	-20.4	-19.6
7	1.2	-20.5	-19.3
8	1.9	-18.1	-16.2
9	1.2	-20.3	-19.1
10	0.6	-20.8	-20.2

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.7	-26.0	-22.3
11	4.2	-25.2	-21.0
12	5.7	-21.3	-15.6
26/1	3.8	-25.0	-21.2
2	4.7	-21.8	-17.1
3	3.6	-28.8	-25.2
4	3.3	-33.7	-30.4
5	2.8	-30.5	-27.7
6	2.7	-28.6	-25.9
7	2.3	-28.2	-25.9
8	4.6	-24.5	-19.9
9	4.0	-24.8	-20.8
10	2.0	-27.7	-25.7

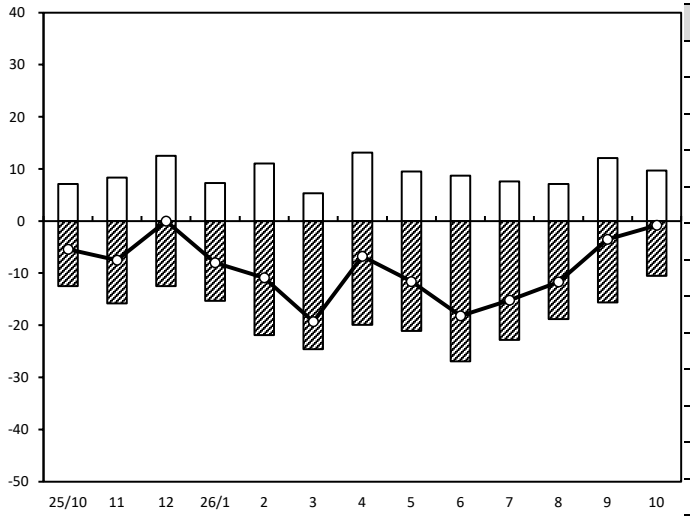
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	2.4	-19.2	-16.8
11	5.5	-17.8	-12.3
12	6.8	-14.6	-7.8
26/1	2.8	-18.2	-15.4
2	5.0	-20.4	-15.4
3	2.8	-24.9	-22.1
4	3.8	-31.0	-27.2
5	2.3	-26.2	-23.9
6	1.9	-25.7	-23.8
7	3.5	-21.3	-17.8
8	4.0	-19.7	-15.7
9	4.3	-20.3	-16.0
10	2.5	-20.8	-18.3

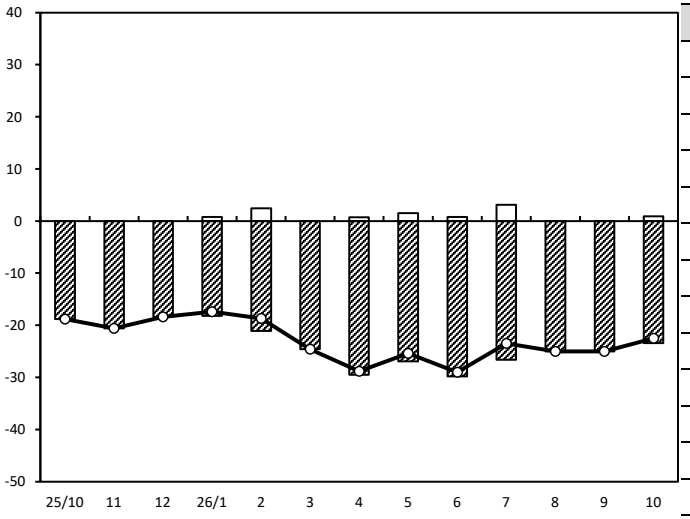
製 造 業【繊維】（前年同月比）

売上額



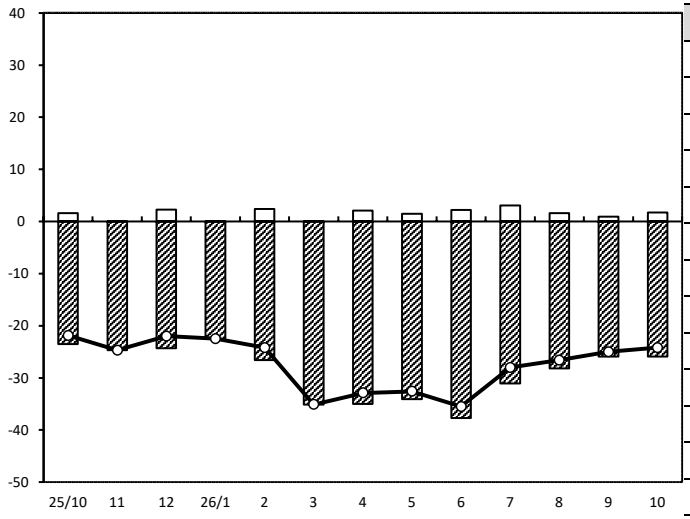
年/月	増加	減少	DI
25/10	7.1	-12.5	-5.4
11	8.3	-15.8	-7.5
12	12.5	-12.5	0.0
26/1	7.3	-15.3	-8.0
2	11.0	-21.9	-10.9
3	5.3	-24.6	-19.3
4	13.1	-19.9	-6.8
5	9.5	-21.1	-11.6
6	8.7	-26.9	-18.2
7	7.6	-22.8	-15.2
8	7.1	-18.8	-11.7
9	12.1	-15.6	-3.5
10	9.7	-10.5	-0.8

資金繰り



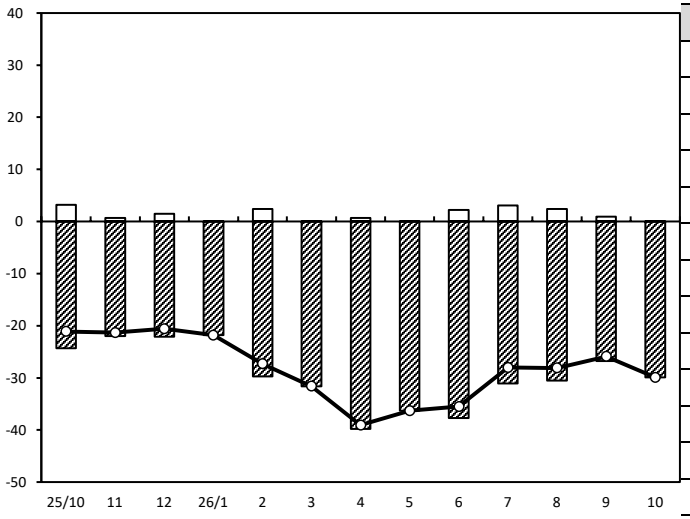
年/月	増加	減少	DI
25/10	0.0	-18.8	-18.8
11	0.0	-20.6	-20.6
12	0.0	-18.4	-18.4
26/1	0.8	-18.2	-17.4
2	2.4	-21.1	-18.7
3	0.0	-24.6	-24.6
4	0.7	-29.5	-28.8
5	1.5	-26.9	-25.4
6	0.8	-29.8	-29.0
7	3.1	-26.6	-23.5
8	0.0	-25.0	-25.0
9	0.0	-25.0	-25.0
10	0.9	-23.4	-22.5

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.6	-23.5	-21.9
11	0.0	-24.7	-24.7
12	2.3	-24.3	-22.0
26/1	0.0	-22.5	-22.5
2	2.4	-26.6	-24.2
3	0.0	-35.1	-35.1
4	2.1	-35.0	-32.9
5	1.5	-34.1	-32.6
6	2.2	-37.7	-35.5
7	3.1	-31.1	-28.0
8	1.6	-28.2	-26.6
9	0.9	-25.9	-25.0
10	1.7	-25.9	-24.2

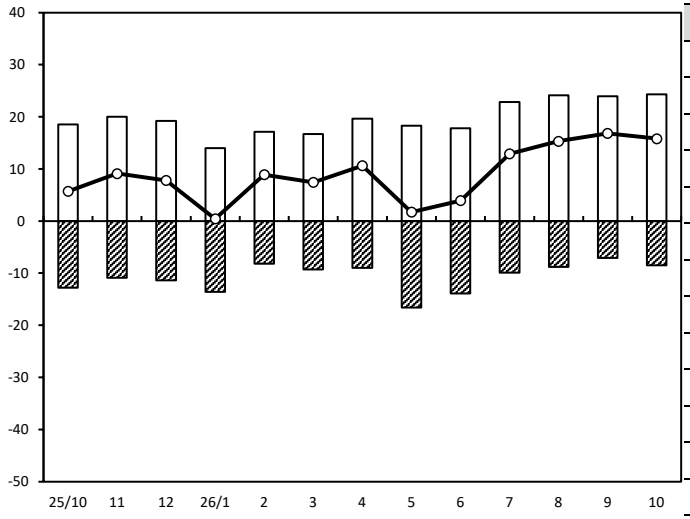
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.2	-24.3	-21.1
11	0.7	-22.0	-21.3
12	1.5	-22.1	-20.6
26/1	0.0	-21.8	-21.8
2	2.4	-29.7	-27.3
3	0.0	-31.6	-31.6
4	0.7	-39.8	-39.1
5	0.0	-36.3	-36.3
6	2.2	-37.7	-35.5
7	3.1	-31.1	-28.0
8	2.4	-30.5	-28.1
9	0.9	-26.8	-25.9
10	0.0	-29.9	-29.9

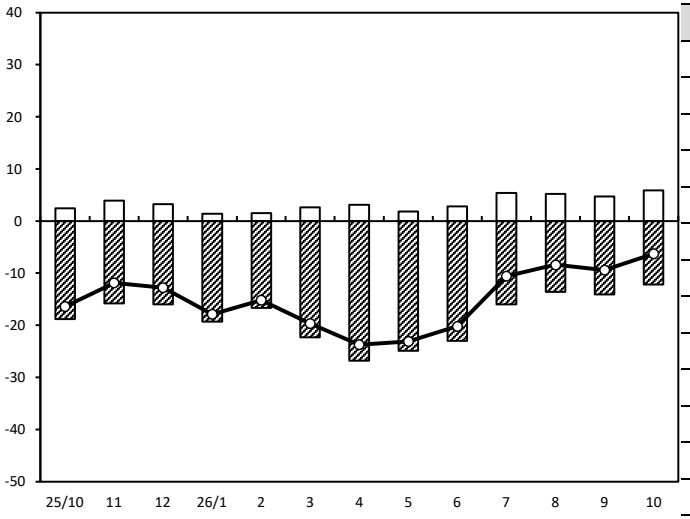
製 造 業【機械･金属】（前年同月比）

売上額



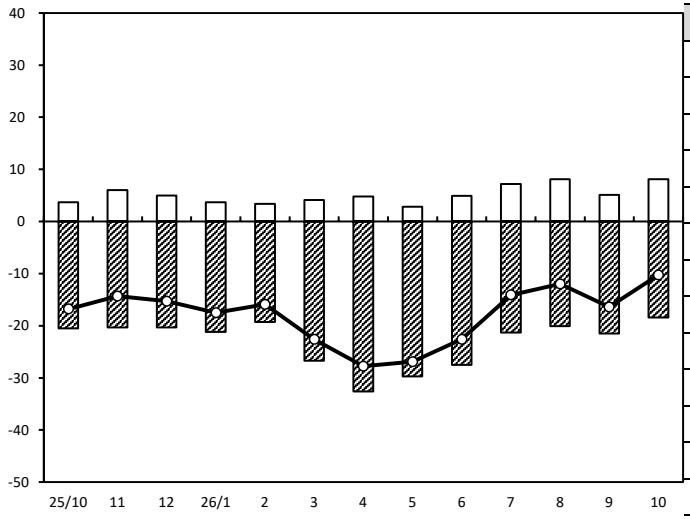
年/月	増加	減少	DI
25/10	18.5	-12.8	5.7
11	20.0	-10.9	9.1
12	19.2	-11.4	7.8
26/1	14.0	-13.6	0.4
2	17.1	-8.2	8.9
3	16.7	-9.3	7.4
4	19.6	-9.0	10.6
5	18.3	-16.6	1.7
6	17.8	-13.9	3.9
7	22.8	-9.9	12.9
8	24.1	-8.8	15.3
9	23.9	-7.1	16.8
10	24.3	-8.5	15.8

資金繰り



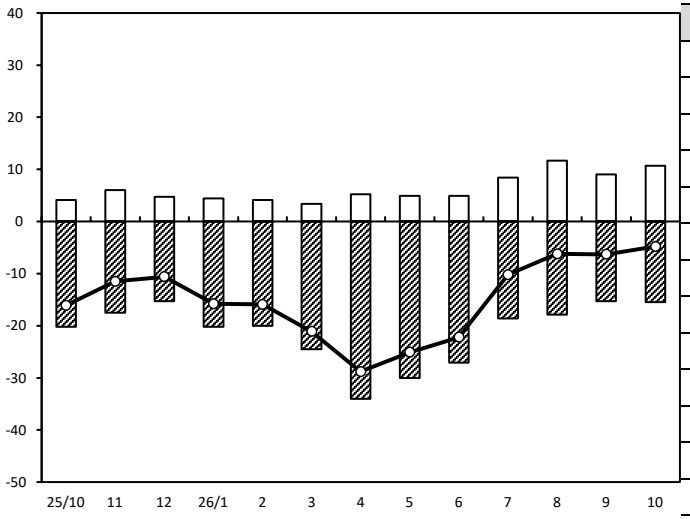
年/月	増加	減少	DI
25/10	2.4	-18.8	-16.4
11	3.9	-15.8	-11.9
12	3.2	-16.0	-12.8
26/1	1.4	-19.3	-17.9
2	1.5	-16.7	-15.2
3	2.6	-22.3	-19.7
4	3.1	-26.8	-23.7
5	1.8	-24.9	-23.1
6	2.8	-23.0	-20.2
7	5.4	-16.0	-10.6
8	5.2	-13.6	-8.4
9	4.7	-14.1	-9.4
10	5.9	-12.2	-6.3

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.7	-20.5	-16.8
11	6.0	-20.3	-14.3
12	5.0	-20.3	-15.3
26/1	3.7	-21.2	-17.5
2	3.4	-19.3	-15.9
3	4.1	-26.7	-22.6
4	4.8	-32.6	-27.8
5	2.8	-29.7	-26.9
6	4.9	-27.5	-22.6
7	7.2	-21.3	-14.1
8	8.1	-20.1	-12.0
9	5.1	-21.5	-16.4
10	8.1	-18.4	-10.3

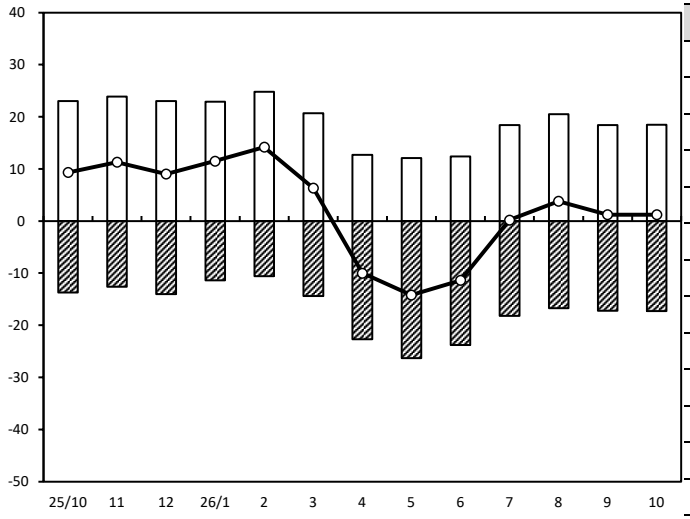
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	4.1	-20.2	-16.1
11	6.0	-17.5	-11.5
12	4.7	-15.3	-10.6
26/1	4.4	-20.2	-15.8
2	4.1	-20.0	-15.9
3	3.4	-24.5	-21.1
4	5.2	-34.0	-28.8
5	4.9	-30.0	-25.1
6	4.9	-27.1	-22.2
7	8.4	-18.6	-10.2
8	11.7	-17.9	-6.2
9	9.0	-15.3	-6.3
10	10.7	-15.5	-4.8

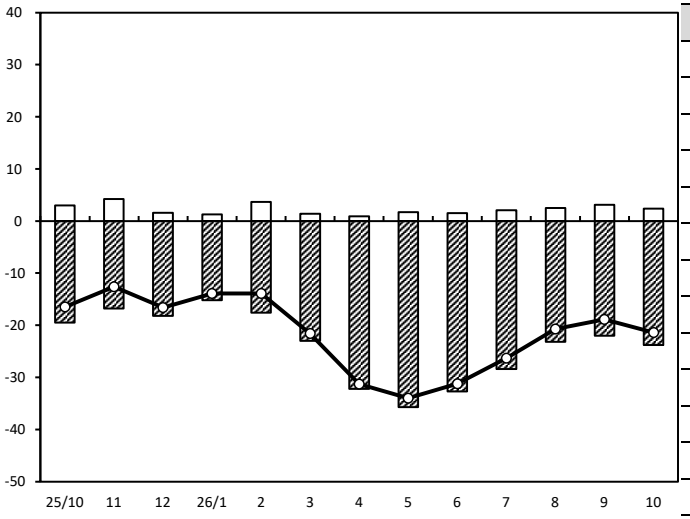
建　設　業(前年同月比)

売上額



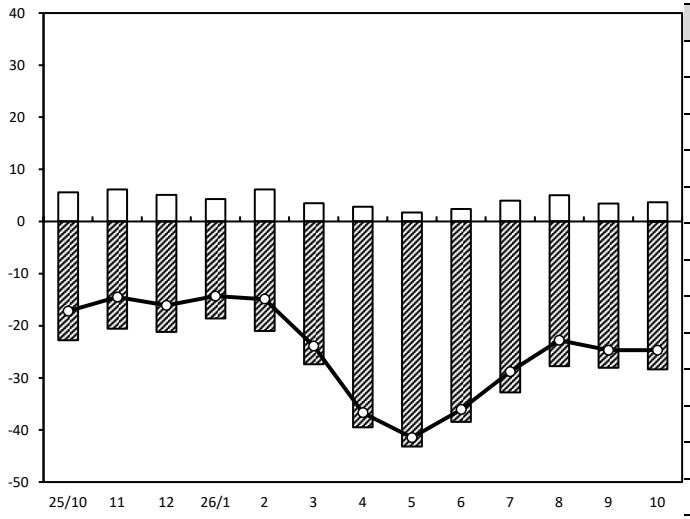
年/月	増加	減少	DI
25/10	23.0	-13.7	9.3
11	23.9	-12.6	11.3
12	23.0	-14.0	9.0
26/1	22.9	-11.4	11.5
2	24.8	-10.6	14.2
3	20.7	-14.4	6.3
4	12.7	-22.7	-10.0
5	12.1	-26.3	-14.2
6	12.4	-23.8	-11.4
7	18.4	-18.2	0.2
8	20.5	-16.7	3.8
9	18.4	-17.2	1.2
10	18.5	-17.3	1.2

資金繰り



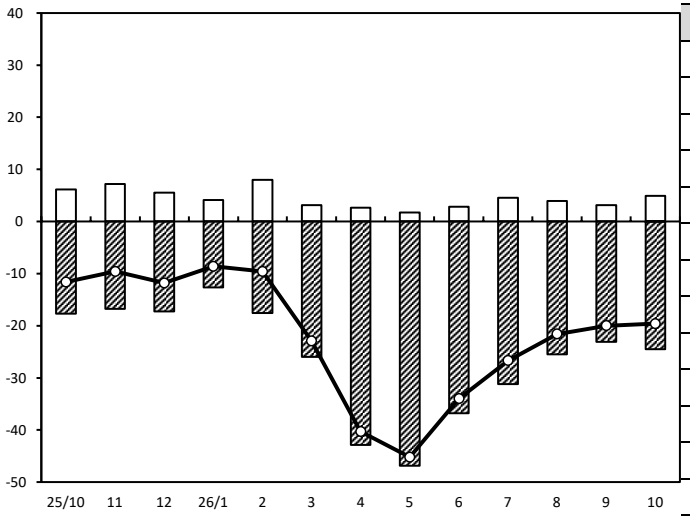
年/月	増加	減少	DI
25/10	3.0	-19.5	-16.5
11	4.2	-16.8	-12.6
12	1.6	-18.2	-16.6
26/1	1.3	-15.2	-13.9
2	3.7	-17.6	-13.9
3	1.4	-23.0	-21.6
4	0.9	-32.2	-31.3
5	1.7	-35.7	-34.0
6	1.5	-32.7	-31.2
7	2.1	-28.4	-26.3
8	2.5	-23.2	-20.7
9	3.1	-22.0	-18.9
10	2.4	-23.8	-21.4

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	5.6	-22.8	-17.2
11	6.1	-20.6	-14.5
12	5.1	-21.2	-16.1
26/1	4.3	-18.6	-14.3
2	6.1	-21.0	-14.9
3	3.5	-27.4	-23.9
4	2.8	-39.5	-36.7
5	1.7	-43.2	-41.5
6	2.4	-38.5	-36.1
7	4.0	-32.8	-28.8
8	5.0	-27.8	-22.8
9	3.4	-28.1	-24.7
10	3.7	-28.4	-24.7

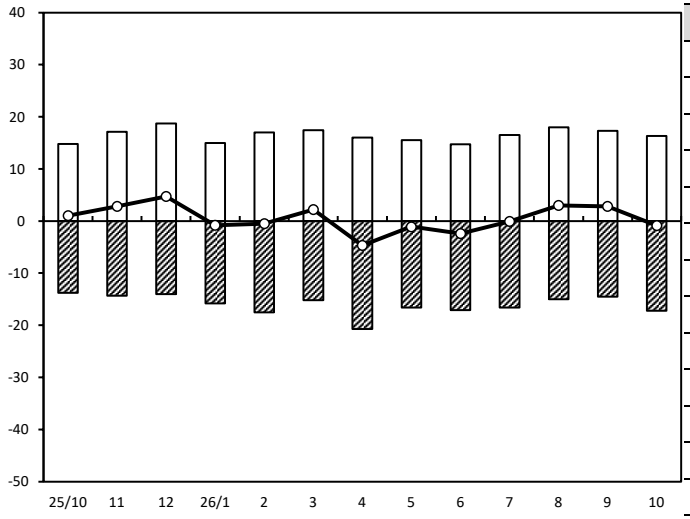
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	6.1	-17.7	-11.6
11	7.2	-16.8	-9.6
12	5.5	-17.3	-11.8
26/1	4.1	-12.7	-8.6
2	8.0	-17.6	-9.6
3	3.1	-26.0	-22.9
4	2.6	-42.9	-40.3
5	1.7	-46.9	-45.2
6	2.8	-36.8	-34.0
7	4.5	-31.2	-26.7
8	3.9	-25.5	-21.6
9	3.1	-23.1	-20.0
10	4.9	-24.5	-19.6

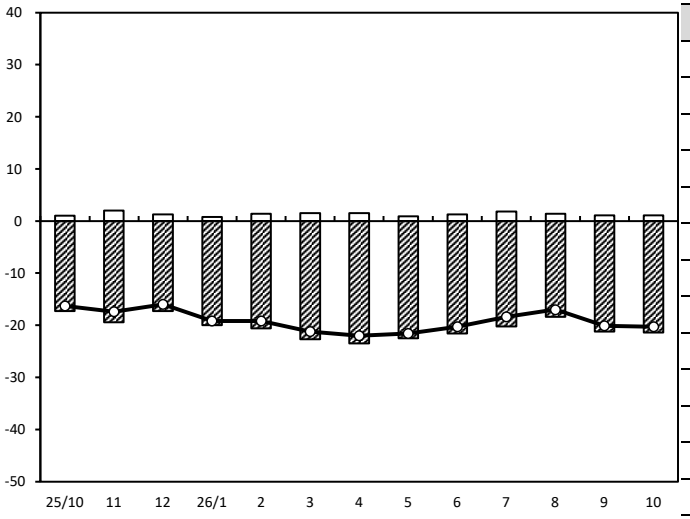
小　売　業(前年同月比)

売上額



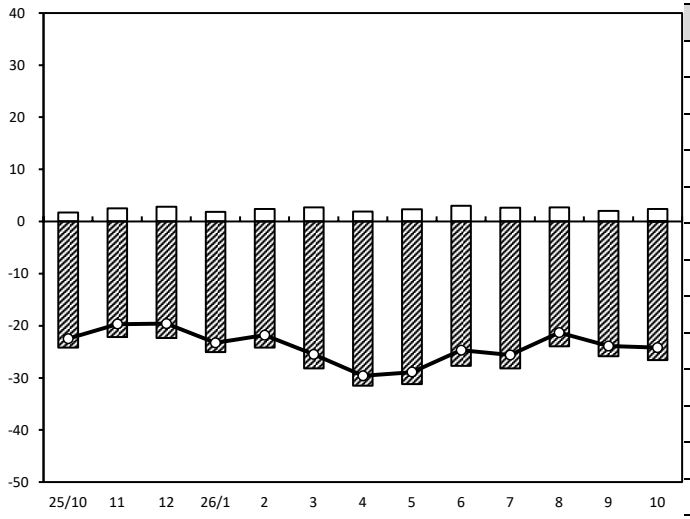
年/月	増加	減少	DI
25/10	14.8	-13.8	1.0
11	17.1	-14.3	2.8
12	18.7	-14.0	4.7
26/1	15.0	-15.8	-0.8
2	17.0	-17.5	-0.5
3	17.4	-15.2	2.2
4	16.0	-20.7	-4.7
5	15.5	-16.6	-1.1
6	14.7	-17.1	-2.4
7	16.5	-16.6	-0.1
8	18.0	-15.0	3.0
9	17.3	-14.5	2.8
10	16.3	-17.2	-0.9

資金繰り



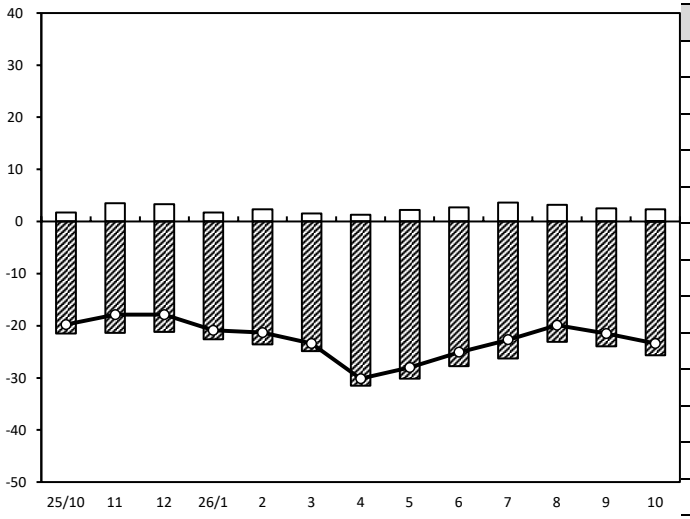
年/月	増加	減少	DI
25/10	1.0	-17.3	-16.3
11	2.0	-19.4	-17.4
12	1.3	-17.3	-16.0
26/1	0.8	-20.0	-19.2
2	1.4	-20.6	-19.2
3	1.5	-22.7	-21.2
4	1.5	-23.5	-22.0
5	0.9	-22.5	-21.6
6	1.3	-21.6	-20.3
7	1.8	-20.2	-18.4
8	1.4	-18.4	-17.0
9	1.1	-21.2	-20.1
10	1.1	-21.4	-20.3

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.7	-24.2	-22.5
11	2.5	-22.2	-19.7
12	2.8	-22.4	-19.6
26/1	1.8	-25.1	-23.3
2	2.4	-24.2	-21.8
3	2.7	-28.2	-25.5
4	1.9	-31.5	-29.6
5	2.3	-31.2	-28.9
6	3.0	-27.7	-24.7
7	2.6	-28.2	-25.6
8	2.7	-24.0	-21.3
9	2.0	-25.9	-23.9
10	2.4	-26.6	-24.2

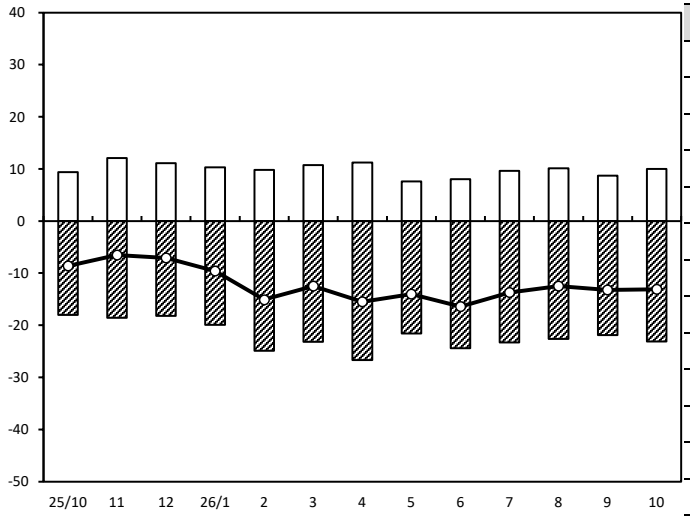
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.7	-21.5	-19.8
11	3.5	-21.4	-17.9
12	3.3	-21.2	-17.9
26/1	1.7	-22.6	-20.9
2	2.3	-23.6	-21.3
3	1.5	-24.9	-23.4
4	1.3	-31.5	-30.2
5	2.2	-30.2	-28.0
6	2.7	-27.8	-25.1
7	3.6	-26.3	-22.7
8	3.2	-23.1	-19.9
9	2.5	-24.0	-21.5
10	2.3	-25.7	-23.4

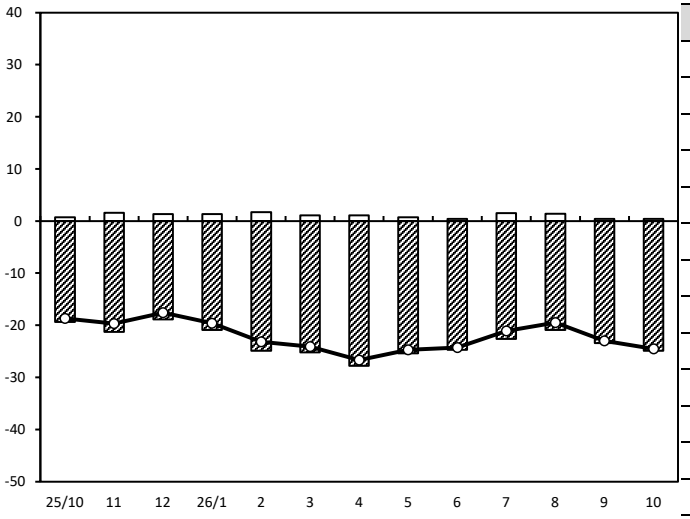
小 売 業【衣料品】（前年同月比）

売上額



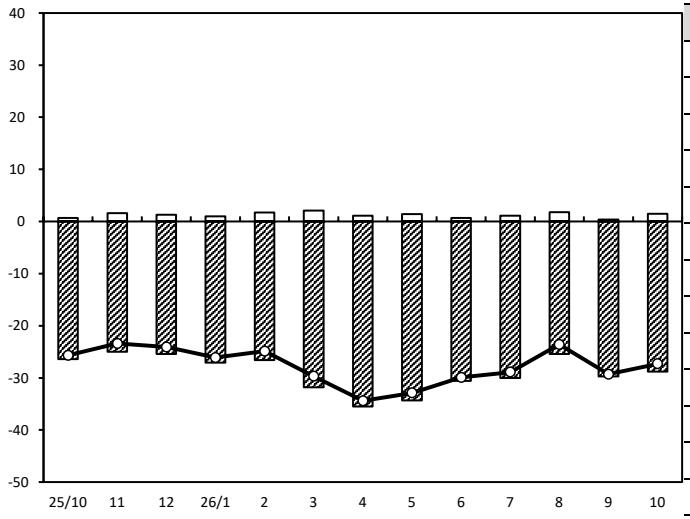
年/月	増加	減少	DI
25/10	9.4	-18.0	-8.6
11	12.1	-18.6	-6.5
12	11.1	-18.2	-7.1
26/1	10.3	-19.9	-9.6
2	9.8	-24.9	-15.1
3	10.7	-23.2	-12.5
4	11.2	-26.7	-15.5
5	7.6	-21.6	-14.0
6	8.0	-24.4	-16.4
7	9.6	-23.3	-13.7
8	10.1	-22.6	-12.5
9	8.7	-21.9	-13.2
10	10.0	-23.1	-13.1

資金繰り



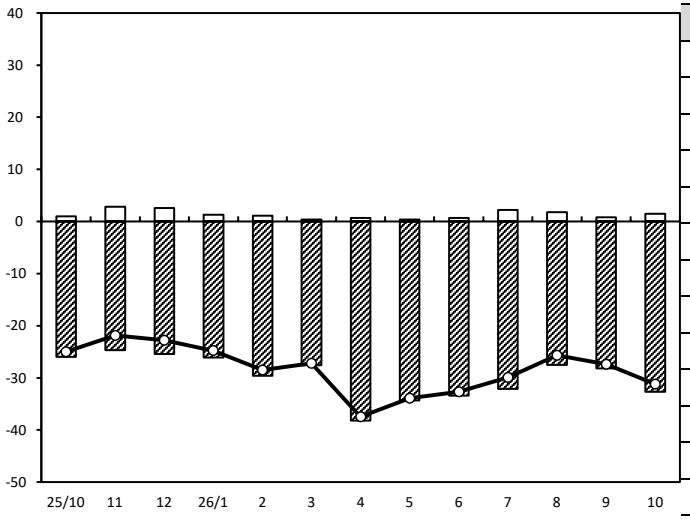
年/月	増加	減少	DI
25/10	0.7	-19.4	-18.7
11	1.6	-21.3	-19.7
12	1.3	-18.9	-17.6
26/1	1.3	-20.9	-19.6
2	1.7	-24.9	-23.2
3	1.1	-25.2	-24.1
4	1.1	-27.8	-26.7
5	0.7	-25.4	-24.7
6	0.4	-24.7	-24.3
7	1.5	-22.6	-21.1
8	1.4	-20.9	-19.5
9	0.4	-23.4	-23.0
10	0.4	-24.9	-24.5

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	0.7	-26.4	-25.7
11	1.6	-25.0	-23.4
12	1.3	-25.4	-24.1
26/1	1.0	-27.1	-26.1
2	1.7	-26.6	-24.9
3	2.1	-31.8	-29.7
4	1.1	-35.5	-34.4
5	1.4	-34.3	-32.9
6	0.7	-30.6	-29.9
7	1.1	-30.0	-28.9
8	1.8	-25.4	-23.6
9	0.4	-29.7	-29.3
10	1.5	-28.8	-27.3

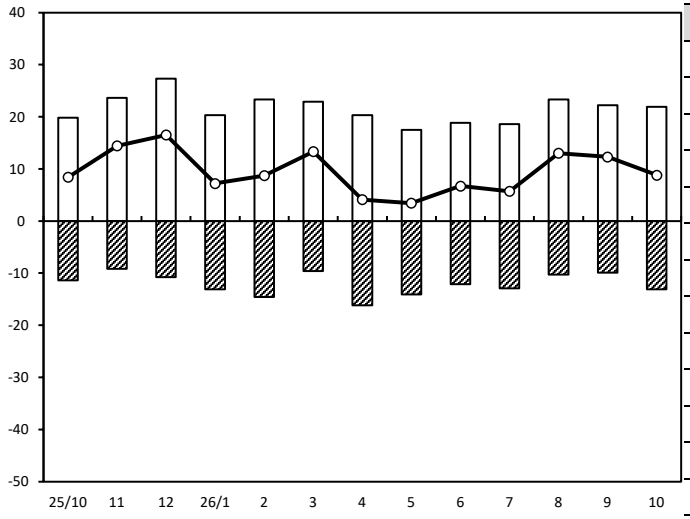
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.0	-26.0	-25.0
11	2.8	-24.7	-21.9
12	2.6	-25.4	-22.8
26/1	1.3	-26.1	-24.8
2	1.1	-29.6	-28.5
3	0.4	-27.6	-27.2
4	0.7	-38.2	-37.5
5	0.4	-34.3	-33.9
6	0.7	-33.4	-32.7
7	2.2	-32.1	-29.9
8	1.8	-27.5	-25.7
9	0.8	-28.2	-27.4
10	1.5	-32.7	-31.2

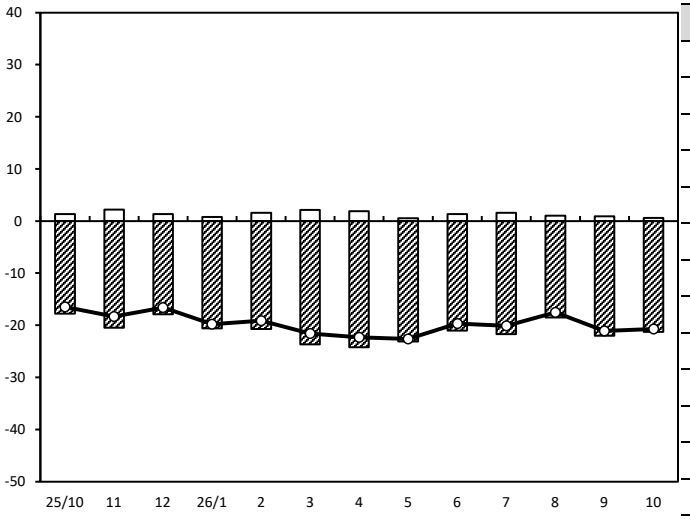
小 売 業【食料品】（前年同月比）

売上額



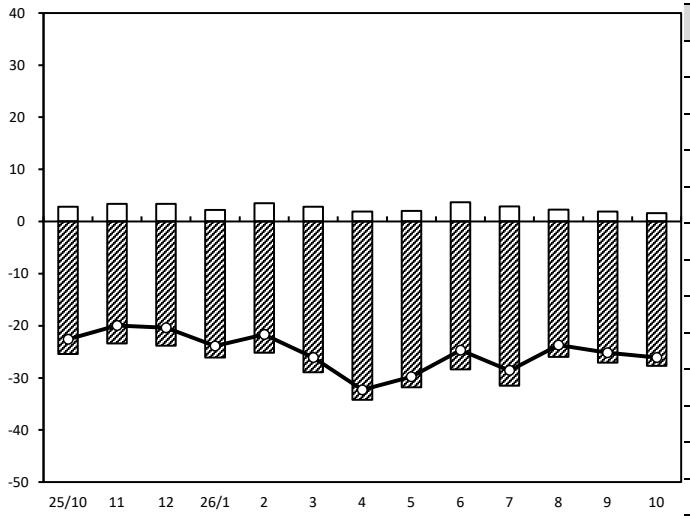
年/月	増加	減少	DI
25/10	19.8	-11.4	8.4
11	23.6	-9.2	14.4
12	27.3	-10.8	16.5
26/1	20.3	-13.1	7.2
2	23.3	-14.6	8.7
3	22.9	-9.6	13.3
4	20.3	-16.2	4.1
5	17.5	-14.1	3.4
6	18.8	-12.1	6.7
7	18.6	-12.9	5.7
8	23.3	-10.3	13.0
9	22.2	-9.9	12.3
10	21.9	-13.1	8.8

資金繰り



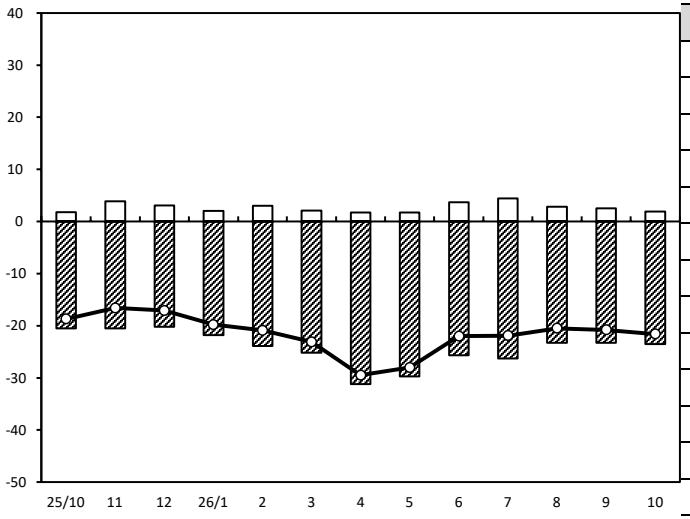
年/月	増加	減少	DI
25/10	1.3	-17.8	-16.5
11	2.2	-20.5	-18.3
12	1.3	-17.9	-16.6
26/1	0.8	-20.6	-19.8
2	1.6	-20.7	-19.1
3	2.1	-23.7	-21.6
4	1.9	-24.2	-22.3
5	0.5	-23.1	-22.6
6	1.3	-21.0	-19.7
7	1.6	-21.7	-20.1
8	1.0	-18.5	-17.5
9	0.9	-22.0	-21.1
10	0.6	-21.3	-20.7

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	2.8	-25.4	-22.6
11	3.4	-23.4	-20.0
12	3.4	-23.8	-20.4
26/1	2.2	-26.1	-23.9
2	3.5	-25.2	-21.7
3	2.8	-28.9	-26.1
4	1.9	-34.2	-32.3
5	2.0	-31.8	-29.8
6	3.7	-28.4	-24.7
7	2.9	-31.5	-28.6
8	2.3	-26.0	-23.7
9	1.9	-27.1	-25.2
10	1.6	-27.7	-26.1

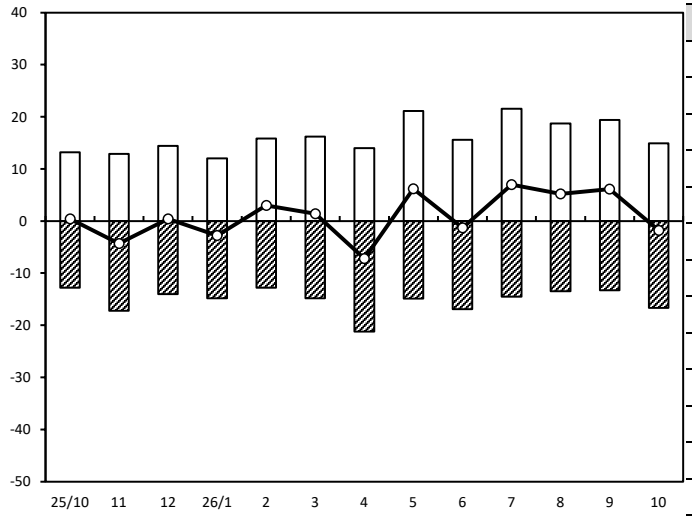
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.8	-20.5	-18.7
11	3.9	-20.5	-16.6
12	3.1	-20.2	-17.1
26/1	2.0	-21.8	-19.8
2	3.0	-23.9	-20.9
3	2.1	-25.2	-23.1
4	1.7	-31.2	-29.5
5	1.7	-29.7	-28.0
6	3.7	-25.7	-22.0
7	4.4	-26.3	-21.9
8	2.8	-23.3	-20.5
9	2.5	-23.3	-20.8
10	1.9	-23.5	-21.6

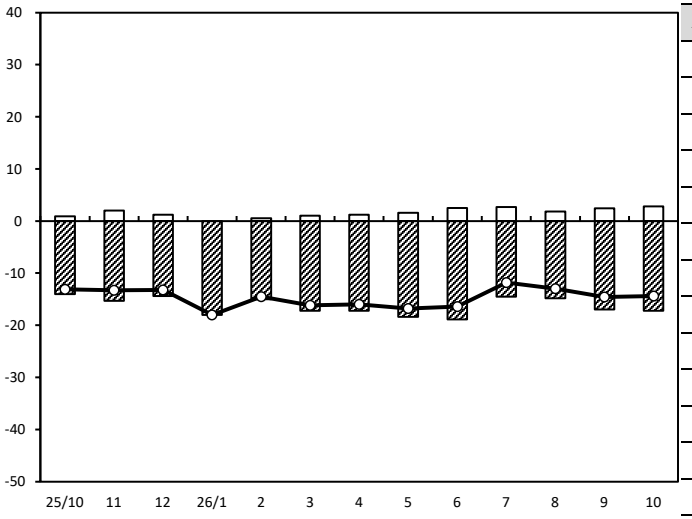
小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

売上額



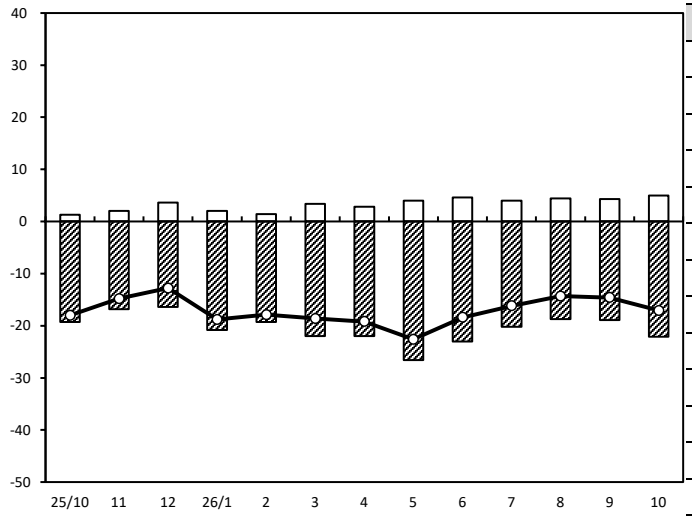
年/月	増加	減少	DI
25/10	13.2	-12.8	0.4
11	12.9	-17.2	-4.3
12	14.4	-14.0	0.4
26/1	12.0	-14.8	-2.8
2	15.8	-12.8	3.0
3	16.2	-14.8	1.4
4	14.0	-21.2	-7.2
5	21.1	-14.9	6.2
6	15.6	-16.9	-1.3
7	21.5	-14.5	7.0
8	18.7	-13.5	5.2
9	19.4	-13.3	6.1
10	14.9	-16.7	-1.8

資金繰り



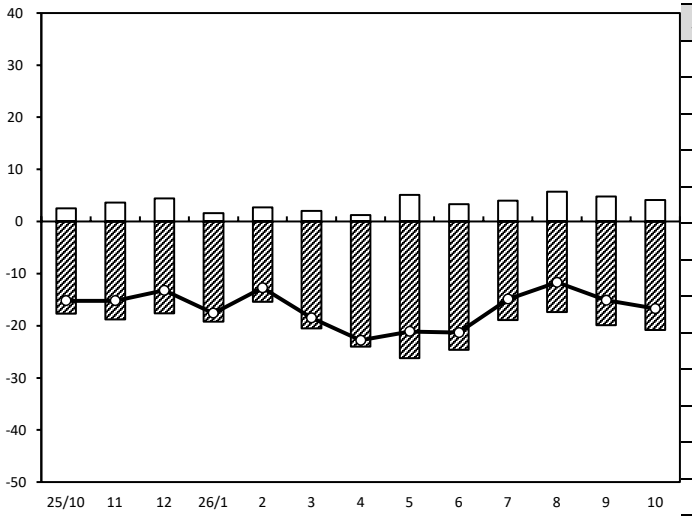
年/月	増加	減少	DI
25/10	0.9	-14.0	-13.1
11	2.0	-15.3	-13.3
12	1.2	-14.4	-13.2
26/1	0.0	-18.0	-18.0
2	0.5	-15.0	-14.5
3	1.0	-17.2	-16.2
4	1.2	-17.2	-16.0
5	1.6	-18.4	-16.8
6	2.5	-18.9	-16.4
7	2.7	-14.5	-11.8
8	1.8	-14.8	-13.0
9	2.4	-17.0	-14.6
10	2.8	-17.2	-14.4

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.3	-19.3	-18.0
11	2.0	-16.8	-14.8
12	3.6	-16.4	-12.8
26/1	2.0	-20.8	-18.8
2	1.4	-19.3	-17.9
3	3.4	-22.0	-18.6
4	2.8	-22.0	-19.2
5	4.0	-26.6	-22.6
6	4.6	-23.0	-18.4
7	4.0	-20.2	-16.2
8	4.4	-18.7	-14.3
9	4.3	-18.9	-14.6
10	5.0	-22.1	-17.1

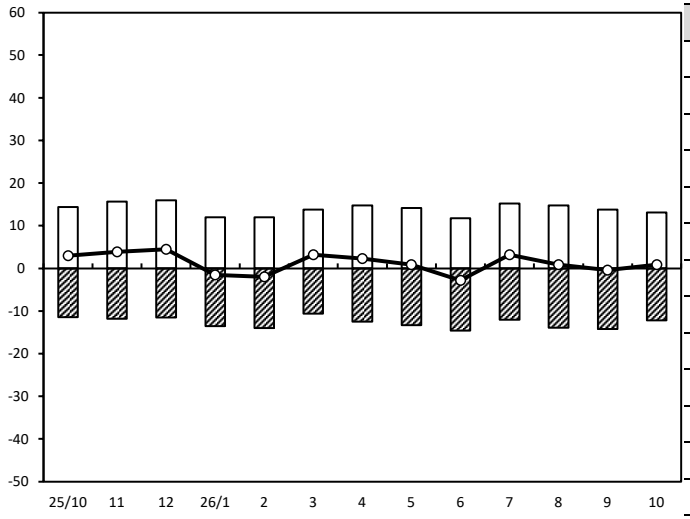
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	2.5	-17.7	-15.2
11	3.6	-18.8	-15.2
12	4.4	-17.6	-13.2
26/1	1.6	-19.2	-17.6
2	2.7	-15.4	-12.7
3	2.0	-20.5	-18.5
4	1.2	-24.0	-22.8
5	5.1	-26.2	-21.1
6	3.3	-24.6	-21.3
7	4.0	-18.9	-14.9
8	5.7	-17.4	-11.7
9	4.8	-19.9	-15.1
10	4.1	-20.8	-16.7

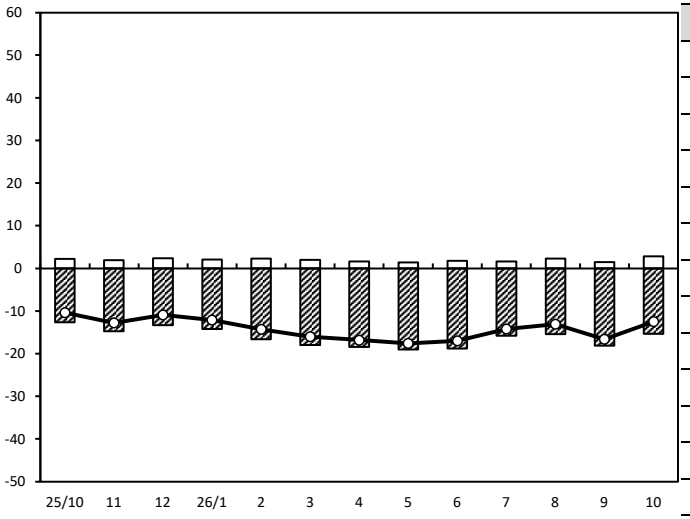
サービス業(前年同月比)

売上額



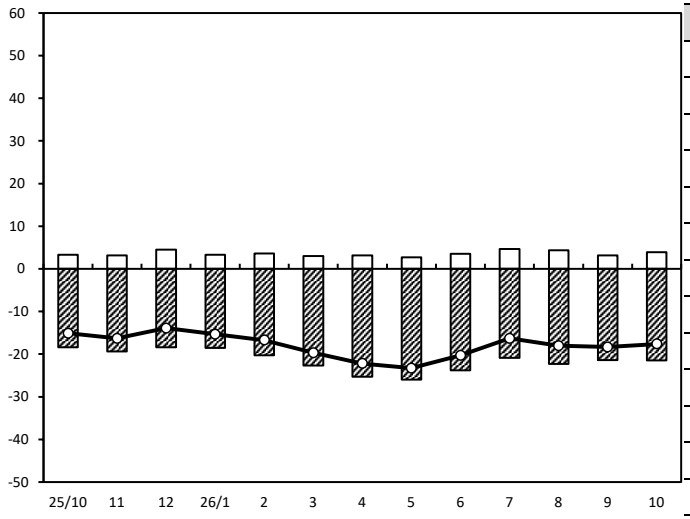
年/月	増加	減少	DI
25/10	14.4	-11.4	3.0
11	15.7	-11.8	3.9
12	16.0	-11.5	4.5
26/1	12.0	-13.5	-1.5
2	12.0	-14.0	-2.0
3	13.8	-10.6	3.2
4	14.8	-12.5	2.3
5	14.2	-13.3	0.9
6	11.8	-14.6	-2.8
7	15.2	-12.0	3.2
8	14.8	-13.9	0.9
9	13.8	-14.2	-0.4
10	13.1	-12.2	0.9

資金繰り



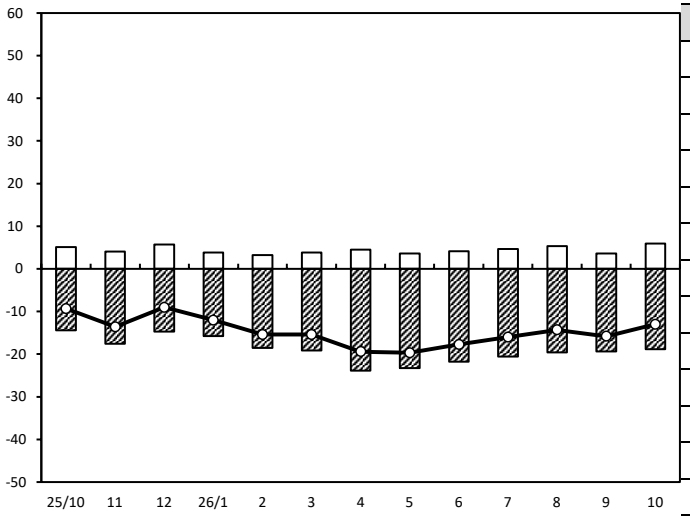
年/月	増加	減少	DI
25/10	2.2	-12.6	-10.4
11	1.9	-14.7	-12.8
12	2.4	-13.3	-10.9
26/1	2.1	-14.2	-12.1
2	2.3	-16.6	-14.3
3	2.0	-18.0	-16.0
4	1.6	-18.4	-16.8
5	1.4	-19.0	-17.6
6	1.8	-18.8	-17.0
7	1.6	-15.8	-14.2
8	2.3	-15.4	-13.1
9	1.5	-18.1	-16.6
10	2.8	-15.3	-12.5

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.3	-18.4	-15.1
11	3.1	-19.4	-16.3
12	4.5	-18.4	-13.9
26/1	3.3	-18.6	-15.3
2	3.6	-20.3	-16.7
3	3.0	-22.7	-19.7
4	3.1	-25.3	-22.2
5	2.7	-26.0	-23.3
6	3.5	-23.8	-20.3
7	4.6	-20.9	-16.3
8	4.3	-22.3	-18.0
9	3.1	-21.4	-18.3
10	3.9	-21.5	-17.6

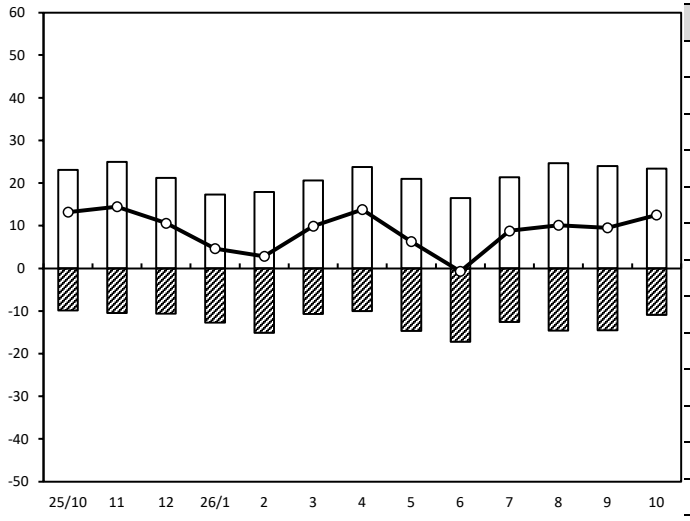
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	5.1	-14.4	-9.3
11	4.0	-17.6	-13.6
12	5.7	-14.7	-9.0
26/1	3.8	-15.8	-12.0
2	3.2	-18.6	-15.4
3	3.8	-19.2	-15.4
4	4.5	-23.9	-19.4
5	3.6	-23.3	-19.7
6	4.1	-21.8	-17.7
7	4.6	-20.6	-16.0
8	5.3	-19.6	-14.3
9	3.6	-19.4	-15.8
10	5.9	-18.9	-13.0

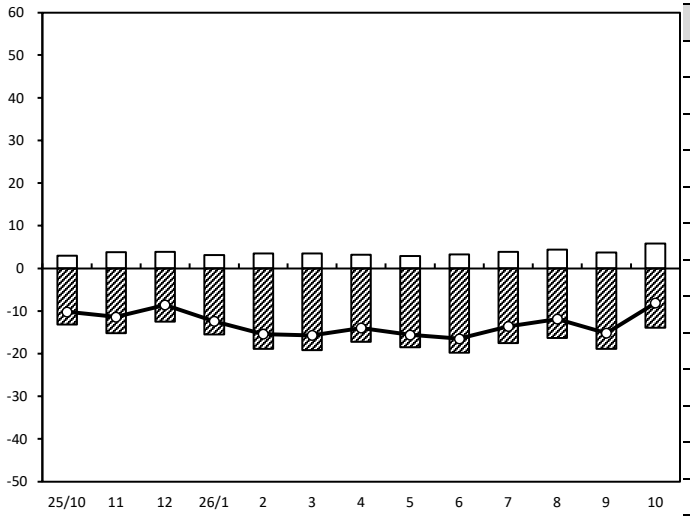
サービス業 【旅館】（前年同月比）

売上額



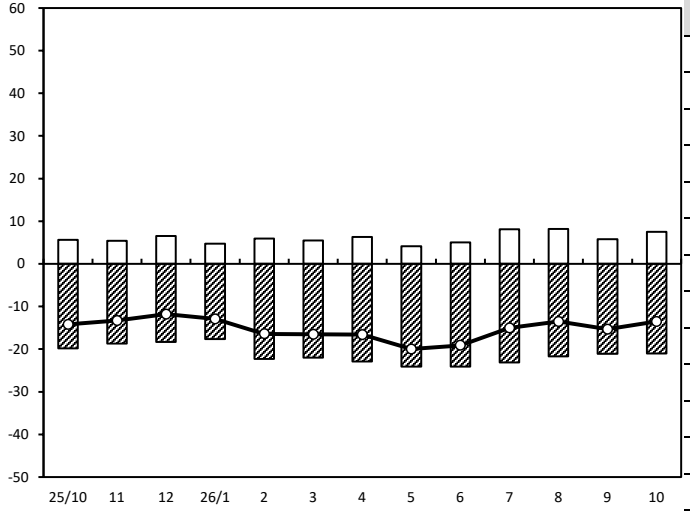
年/月	増加	減少	DI
25/10	23.1	-9.9	13.2
11	25.0	-10.5	14.5
12	21.2	-10.6	10.6
26/1	17.3	-12.7	4.6
2	17.9	-15.1	2.8
3	20.6	-10.7	9.9
4	23.8	-10.0	13.8
5	21.0	-14.7	6.3
6	16.5	-17.2	-0.7
7	21.4	-12.6	8.8
8	24.7	-14.6	10.1
9	24.0	-14.5	9.5
10	23.4	-10.9	12.5

資金繰り



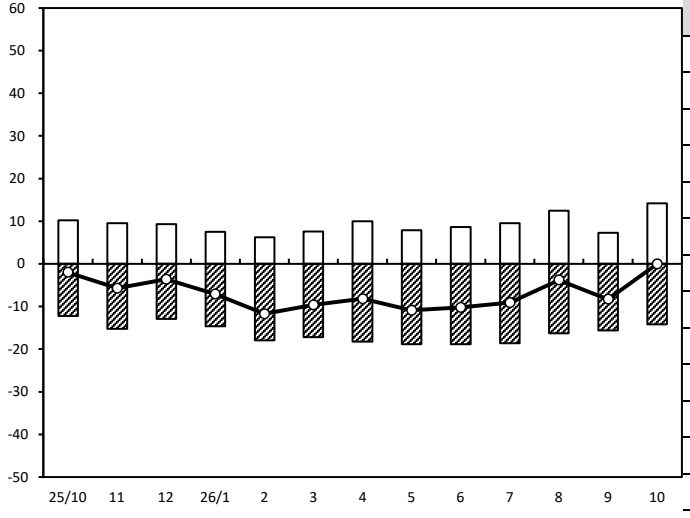
年/月	増加	減少	DI
25/10	3.0	-13.2	-10.2
11	3.8	-15.2	-11.4
12	3.9	-12.5	-8.6
26/1	3.1	-15.5	-12.4
2	3.5	-18.9	-15.4
3	3.5	-19.2	-15.7
4	3.2	-17.2	-14.0
5	2.9	-18.5	-15.6
6	3.3	-19.8	-16.5
7	3.9	-17.5	-13.6
8	4.4	-16.3	-11.9
9	3.7	-18.9	-15.2
10	5.8	-13.9	-8.1

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	5.6	-19.8	-14.2
11	5.4	-18.7	-13.3
12	6.5	-18.3	-11.8
26/1	4.7	-17.6	-12.9
2	5.9	-22.3	-16.4
3	5.5	-22.0	-16.5
4	6.3	-22.9	-16.6
5	4.1	-24.1	-20.0
6	5.0	-24.1	-19.1
7	8.1	-23.1	-15.0
8	8.2	-21.7	-13.5
9	5.8	-21.1	-15.3
10	7.5	-21.0	-13.5

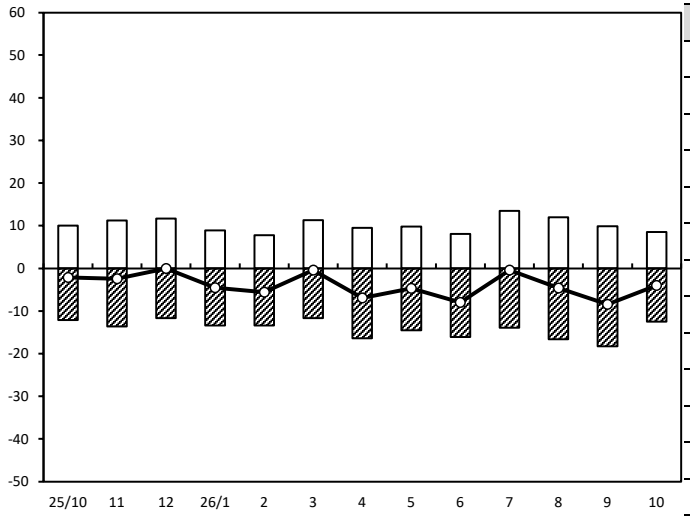
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	10.2	-12.2	-2.0
11	9.5	-15.2	-5.7
12	9.3	-12.9	-3.6
26/1	7.5	-14.6	-7.1
2	6.2	-17.9	-11.7
3	7.6	-17.2	-9.6
4	10.0	-18.2	-8.2
5	7.9	-18.8	-10.9
6	8.6	-18.8	-10.2
7	9.5	-18.6	-9.1
8	12.5	-16.3	-3.8
9	7.3	-15.6	-8.3
10	14.2	-14.2	0.0

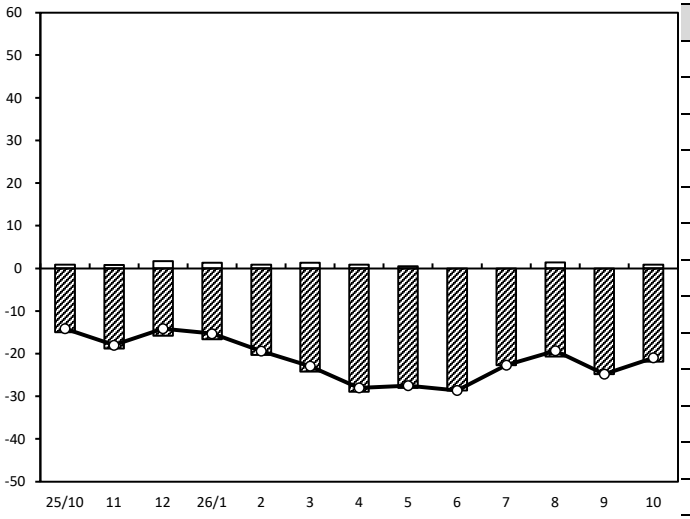
サービス業 【クリーニング】（前年同月比）

売上額



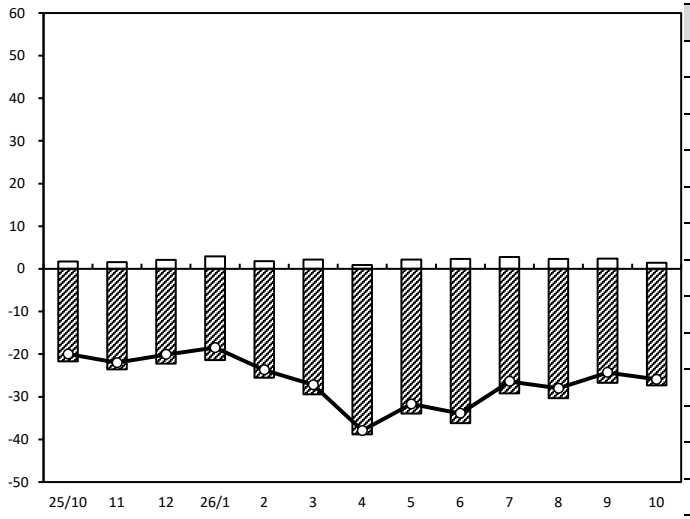
年/月	増加	減少	DI
25/10	10.0	-12.1	-2.1
11	11.2	-13.6	-2.4
12	11.7	-11.7	0.0
26/1	8.9	-13.4	-4.5
2	7.8	-13.4	-5.6
3	11.3	-11.7	-0.4
4	9.5	-16.4	-6.9
5	9.8	-14.5	-4.7
6	8.1	-16.1	-8.0
7	13.5	-13.9	-0.4
8	12.0	-16.6	-4.6
9	9.9	-18.3	-8.4
10	8.5	-12.5	-4.0

資金繰り



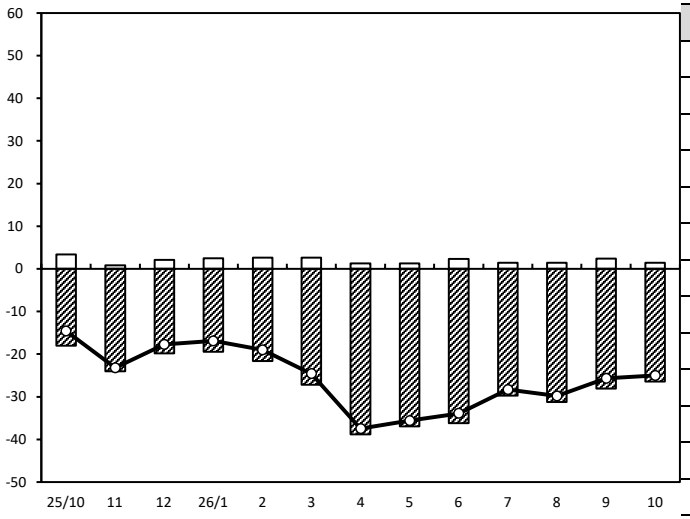
年/月	増加	減少	DI
25/10	0.9	-15.0	-14.1
11	0.8	-18.8	-18.0
12	1.7	-15.8	-14.1
26/1	1.3	-16.6	-15.3
2	0.9	-20.3	-19.4
3	1.3	-24.2	-22.9
4	0.9	-28.9	-28.0
5	0.5	-28.0	-27.5
6	0.0	-28.6	-28.6
7	0.0	-22.7	-22.7
8	1.4	-20.7	-19.3
9	0.0	-24.8	-24.8
10	0.9	-21.9	-21.0

採算



年/月	増加	減少	DI
25/10	1.7	-21.7	-20.0
11	1.6	-23.6	-22.0
12	2.1	-22.2	-20.1
26/1	2.9	-21.4	-18.5
2	1.8	-25.5	-23.7
3	2.2	-29.4	-27.2
4	0.9	-38.8	-37.9
5	2.2	-33.9	-31.7
6	2.3	-36.2	-33.9
7	2.8	-29.2	-26.4
8	2.3	-30.3	-28.0
9	2.4	-26.7	-24.3
10	1.4	-27.3	-25.9

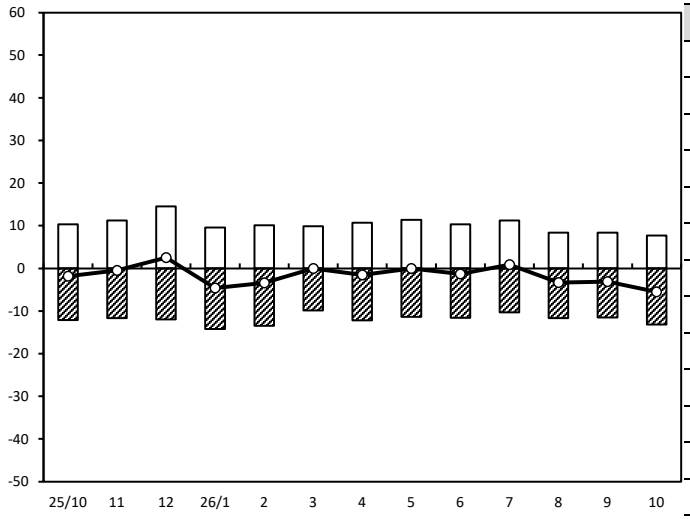
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
25/10	3.4	-18.0	-14.6
11	0.8	-24.0	-23.2
12	2.1	-19.8	-17.7
26/1	2.5	-19.4	-16.9
2	2.6	-21.6	-19.0
3	2.6	-27.2	-24.6
4	1.3	-38.8	-37.5
5	1.3	-36.9	-35.6
6	2.3	-36.2	-33.9
7	1.4	-29.7	-28.3
8	1.4	-31.2	-29.8
9	2.4	-28.1	-25.7
10	1.4	-26.4	-25.0

サービス業 【理・美容】（前年同月比）

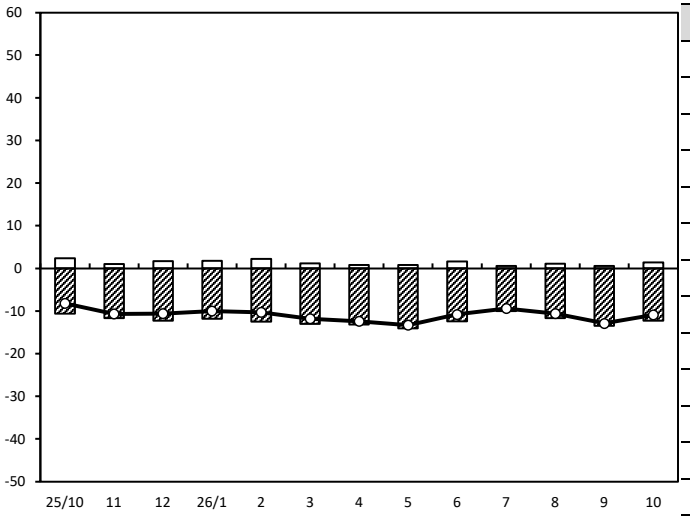
売上額



（年月）

年/月	増加	減少	DI
25/10	10.3	-12.1	-1.8
11	11.2	-11.7	-0.5
12	14.5	-12.0	2.5
26/1	9.6	-14.2	-4.6
2	10.1	-13.5	-3.4
3	9.9	-9.9	0.0
4	10.7	-12.2	-1.5
5	11.4	-11.4	0.0
6	10.3	-11.6	-1.3
7	11.2	-10.3	0.9
8	8.4	-11.7	-3.3
9	8.4	-11.5	-3.1
10	7.7	-13.2	-5.5

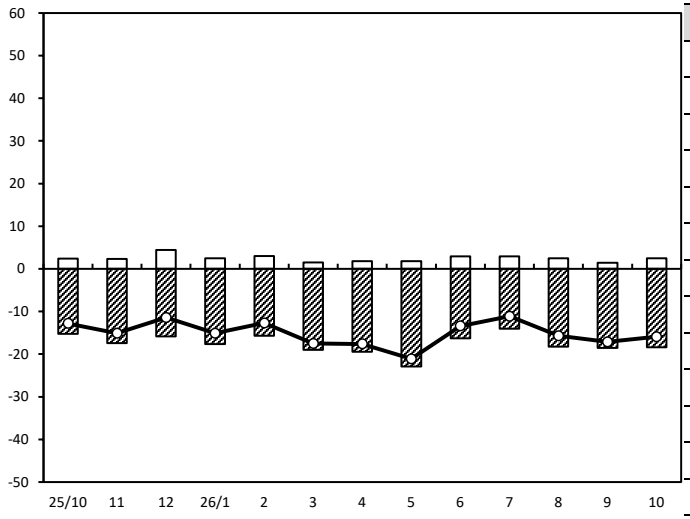
資金繰り



（年月）

年/月	増加	減少	DI
25/10	2.4	-10.6	-8.2
11	1.0	-11.7	-10.7
12	1.7	-12.3	-10.6
26/1	1.8	-11.8	-10.0
2	2.2	-12.5	-10.3
3	1.2	-13.0	-11.8
4	0.8	-13.2	-12.4
5	0.8	-14.1	-13.3
6	1.6	-12.4	-10.8
7	0.6	-10.0	-9.4
8	1.1	-11.7	-10.6
9	0.6	-13.5	-12.9
10	1.4	-12.3	-10.9

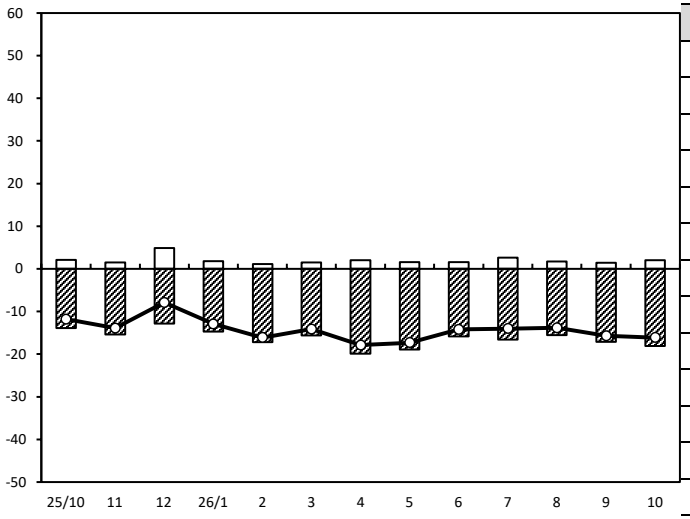
採算



（年月）

年/月	増加	減少	DI
25/10	2.4	-15.2	-12.8
11	2.3	-17.4	-15.1
12	4.4	-15.8	-11.4
26/1	2.5	-17.6	-15.1
2	3.0	-15.7	-12.7
3	1.5	-19.0	-17.5
4	1.8	-19.4	-17.6
5	1.8	-22.9	-21.1
6	2.9	-16.3	-13.4
7	2.9	-14.0	-11.1
8	2.5	-18.2	-15.7
9	1.4	-18.5	-17.1
10	2.5	-18.4	-15.9

業界の業況



（年月）

年/月	増加	減少	DI
25/10	2.1	-13.9	-11.8
11	1.5	-15.4	-13.9
12	4.9	-12.8	-7.9
26/1	1.8	-14.7	-12.9
2	1.1	-17.2	-16.1
3	1.5	-15.6	-14.1
4	2.0	-19.9	-17.9
5	1.6	-18.9	-17.3
6	1.6	-15.8	-14.2
7	2.6	-16.6	-14.0
8	1.7	-15.5	-13.8
9	1.4	-17.1	-15.7
10	2.0	-18.1	-16.1

小規模企業景気動向調査（10月期）における商工会経営指導員の主なコメント

＊コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1.景気全般

＜改善傾向を示すコメント＞

10月期の地域経済は、業種によって多少のばらつきはあるものの、製造業や建設業を中心に売上や受注は堅調に推移している。小売業では天候に恵まれたことで来店客数が増加し、サービス業でも季節行事などの影響から売上が伸びた業種が見られた。一方、資材や仕入価格の高止まり、一部資材の在庫不足など、依然としてコスト面での負担は続いている。全体としては、企業活動は比較的安定しているものの、仕入価格の動向や業種ごとの景況感の違いには、引き続き注意が必要である。

（茨城県守谷市商工会）

10月は全般的に気温が高く天候に恵まれ、地区内で開催された多くのイベントが盛況であった。観光関連業を中心に、業種全般で景気の持ち直しが感じられる。/町の制度融資でも設備投資資金の利用が増えており、各業種で積極的な設備投資に転じる動きがみられた。

（福岡県広川町商工会）

＜悪化傾向を示すコメント＞

10月は9月の大型連休後でもあり、景気は下降気味であった。食料品の値上がりや水産物の不漁による高値などのニュース報道により、年末商戦を心配する声があった。寒さが厳しくなる時期を迎え、燃料コストを気にする声もあった。

（北海道新ひだか町商工会）

建設業や一部製造業で受注が堅調に推移し、旅館業ではインバウンド需要の拡大が見られるなど、一部業種では好調な動きが見られる。一方、小売業を中心に消費者の節約志向が強く、原材料・仕入価格や燃料費、人件費、光熱費などの上昇が収益を圧迫している。また、人手不足も業種を問わず課題となっており、生産・営業体制の維持が難しい事業所も見られる。今後は、需要動向に加え、価格転嫁や人材確保への対応が管内事業者の経営状況を左右する重要な要因になると考えられる。

（秋田県由利本荘市商工会）

紅葉ハイシーズンの本格化により「観光・サービス・小売」を中心に需要が年間最大級のピークを迎えた。「建設・製造」も現場・受注ともに高い稼働水準を維持した。一方、1日発効の最低賃金改定が直撃し、全業種で人件費負担が急増。高止まりする原材料費や光熱費、予約手数料も加わり、売上ピークでありながら粗利益が残りにくい構造が一段と深化している。今後は、賃上げ分を反映させる「適正価格への改定（値上げ）」交渉と、自社直販化や省力化IT導入による粗利（手元利益）確保が優先課題となっている。

（栃木県那須町商工会）

値上げをしても収入は変わらないため、結果として可処分所得の取り合いとなる。理美容は特に生活に直結していないため、後回しにされがち。価格転嫁を行うことはできるが、来店頻度に影響が出て最終的な利益が現状維持となることはない。

（埼玉県伊奈町商工会）

物価高騰による値上げに対する反応、最低賃金引上げに関する反応が多い月であった。小規模事業者においては物価高騰を充当する程の売上を確保できておらず、最低賃金を上昇させる体力が確保できていないように見受けられる。

（東京都福生市商工会）

最低賃金の引き上げに伴い、特にパート従業員を多く雇用する事業者への影響が大きくなっている。パート従業員の賃金上昇により正社員との賃金差が縮小することから、正社員を含めた従業員全体の賃金引き上げを検討・実施せざるを得ないケースも見られる。また、物価高騰による仕入価格や諸経費の上昇以上に、最低賃金の引き上げを経営上の大きな負担として捉える事業者もおり、人件費の増加が収益を圧迫する要因となっている。

（長野県上松町商工会）

景気全般では、建設業を中心に人手不足が続いており、受注需要があっても人員不足により十分に対応できないなど、供給面での制約が見られる。一方、秋の行楽シーズンを迎え、地域への来訪者が増加しており、小売業や宿泊業では観光客など域外需要を取り込める事業者に比較的堅調な動きが見られる。また、空き家を活用した民泊やゲストハウスなど、観光需要を見込んだ新規参入の動きもあり、人口減少が進む中で、地域外からの需要をいかに取り込むかが引き続き重要な課題となっている。

（岐阜県中津川北商工会）

地域経済の中心である茶関連産業は比較的堅調に推移しており、観光需要も回復傾向にある。一方で原材料価格やエネルギー価格の上昇、人手不足、高齢化による後継者問題は依然として大きな課題である。小規模事業者では価格転嫁が難しい事例も見られ、収益改善には至っていない事業者も多い。

（京都府和束町商工会）

当月は、秋の行楽・イベントシーズンの本格化や天候の安定に伴い、飲食・宿泊・小売の一部で週末を中心に需要の持ち直しが見られた。また、設備投資補助金を活用した省力化や多品種対応による顧客獲得など、前向きな経営努力が各分野で確認される。しかし、原材料・資材・燃料価格の高騰や人件費上昇のスピードに対し価格転嫁が追いついていない事業者では採算の悪化が継続している。さらに、技術者の確保難や人手不足が受託・生産能力の限界を生じさせており、前年同期と比較しても全体の急激な悪化は避けつつも、コスト高と人材制約に直面する事業者の二極化が進んでいる。

（兵庫県丹波市商工会）

全業種を通じて、仕入単価の上昇や高止まりが継続しており、原材料・資材高に伴う採算の低下が共通の大きな重荷となっています。売上面では、インバウンド需要や季節要因、地域応援券による下支えが見られる一方、顧客減少や節約志向により伸び悩む分野もあり、業種・企業間での二極化がうかがえます。資金繰りへの深刻な悪化は抑えられているものの、価格転嫁の遅れや深刻な人手不足が収益確保の阻害要因となっており、適正価格への改定や生産性向上の推進が全体の喫緊の課題です。

（鳥取県米子日吉津商工会）

国内景気は一部に持ち直しの動きがみられるものの、中小・小規模事業者を取り巻く経営環境は依然として厳しい。物価上昇に伴う原材料費や仕入価格、エネルギー価格の高止まりに加え、人件費や最低賃金の上昇も経営負担となっている。価格転嫁の必要性は高まっているものの、消費者の節約志向や取引先との価格交渉の難しさから、十分な転嫁に至っていない事業者も多い。また、各種値上げへの対応や事務負担の増加が、本来の営業活動や生産活動に充てる時間を圧迫している。今後は年末需要による売上の下支えが期待される一方、コスト上昇が続く中で、引き続き厳しい経営環境が続くものと考えられる。

（岡山県岡山北商工会）

どの業界も二極化の傾向にある。高齢により後継者がいない事業所の廃業が見受けられる。

（広島県福山あしな商工会）

不況という雰囲気は感じられないが、かといって好景気とも言えないニュートラルな市場の雰囲気を感じる。一時期のパニックからくる買い溜め、買い控え傾向も落ち着いたのか安定的な消費傾向が見える。

（香川県三豊市商工会 豊中支所）

・原材料の高騰に歯止めはかかっていないがどの業界も若干ではあるが価格の上昇も見られる。都市部に比べると上げ幅は微増であり利益の改善にはつながっていない。１１月から最低賃金が60円引き上げられることや商品券事業が10月で終了することに伴い経営のさらなる悪化が懸念される。

（愛媛県西予市商工会）

・建設資材や食品等は更なる値上げとなり、事業者の収益確保がますます厳しくなっている印象。最低賃金の引上げも11月から実施されるため、採算性や収益性の影響が懸念される。事業者間での格差も広がる見通し。

（佐賀県多久市商工会）

・11月2日から最低賃金が引き上げられることとなり、会員事業者からは人件費の増加による経営への影響を懸念する声が多く聞かれる。飲食店や菓子製造販売業など、比較的販売単価が低い業種では、原材料費や人件費等の上昇分を販売価格に転嫁する必要性を感じているものの、値上げによる客離れや購買意欲の低下を懸念し、価格改定に踏み切れない事業者も見受けられる。

（長崎県諫早市商工会）

・必要経費の上昇に対して価格転嫁がうまくできていない企業が多く、経営を圧迫している。人員の確保についても、過疎地域で若者の流出が避けられない状況である。事業者の高齢化が顕著であり、事業承継についても喫緊の課題である。

（熊本県山都町商工会）

・景気全般における事業者は、継続する物価高の影響に対して、適切な価格転嫁により利益を確保できている企業とそうでない企業との間で、今後の事業存続の見通しが大きく分かれる状況になっている。コスト増が避けられない環境下においては、事業全体の採算が確実に合うよう、客観的な数字と真摯に向き合う精緻な収支管理の徹底が、今後の経営を左右する重要な鍵となっている。

（大分県中津市しもげ商工会）

2.製造業

・＜改善傾向を示すコメント＞

原材料価格については、銅やコバルトを中心に引き続き上昇傾向にあり、製造コストの増加が続いている。また、人件費についても賃金上昇の影響により負担が増加している。こうしたコスト上昇に対応するため、賃金の上昇や原材料価格等の動向を踏まえ、取引先に対して適時、製品価格の値上げを依頼し、収益確保に努めている。値上げについては、取引先にも一定の理解をいただいており、価格改定の依頼に対して柔軟に対応していただいている。

・（岐阜県安八町商工会）

食料品製造業は原材料の値上がりが続くなか、卵の価格も上昇している。年末商戦に向けた企画対応や価格改定に追われている。／繊維業では、一部の数社が共同で合同会社を設立し、消費地に直営店を出店するなど、攻めの姿勢で積極的に投資する動きがみられた。／製造業は、雨漏りなど、工場の経年劣化による修繕が必要になっている。しかし、先行きが見通しにくい現状では投資に回すかどうか判断がつかず、工事に踏み切れずにいる。

・（福岡県広川町商工会）

・売上・利益ともに堅調に推移しており、受注・売上ともに好調である。現在、設備導入を検討するほど高い稼働状況が続いており、旺盛な需要がうかがえる。今後も当面は高い稼働率が継続し、業界全体として堅調に推移する見込みである（機械金属製造業）。

・（鹿児島県日置市商工会 日吉支所）

＜悪化傾向を示すコメント＞

・半導体・自動車関連需要を背景に受注は底堅く推移すると見込まれるが、人件費や資材価格の上昇、人材不足への対応が課題となっており、収益環境は引き続き厳しい状況が予想される。

（岩手県前沢商工会）

繊維工業関連の事業者は、最低賃金上昇に伴う製造原価が増加。業務効率化のための設備等の更新を検討している。機械・金属関連の事業者は、10月は好調であったが来月以降が仕事が薄く不安定な状況である。

・（秋田県かづの商工会）

菓子製造業：材料について毎週何かしらの値上げの通知が来る。原価管理もままならず、価格転嫁しようとしても嗜好品のため消費者は値上げに敏感で、単純な価格転嫁はできない。季節商品の入れ替え毎対応しているが追いつかない。消費税減税になっても7%下げられる余裕はない。

・（山形県南陽市商工会）

消費税減税の効果は見込めるものの、調達・管理コストの面では何も変わらない上、水道光熱費の上昇やガソリン補助金の見直しもあり、期待感より悲観的な見方の広まりを感じる。

・（福島県会津美里町商工会）

食料品製造は10月中旬以降、紅葉の見頃に合わせて観光客数が年間最大級のピークを迎えるため、お土産用菓子やギフト商品の製造出荷はフル稼働状態となった。また、繁忙期に対応するためのスタッフの時給単価が10月から切り上がったことに加え、包装資材等の価格高騰が続いており、売上は伸びているものの、「手元の粗利益が想定より残らない」という悩みが強まっている。最低賃金の改定により、人件費の直接的なコスト増が全社的な経営圧迫要因となった。原材料費やエネルギー費用の高止まりも続いており、「人件費・コスト上昇分を発注元（親企業）へいかに価格転嫁できるか」が粗利（利益）の明暗を分ける局面となっている。

・（栃木県那須町商工会）

鉄等の原材料価格の上昇が続いている。中々値上げ分全額は転嫁できていない。新たな販路を求め、展示会出展を考えている事業所もいる。

・（群馬県千代田町商工会）

原材料費やエネルギーコストの高止まりにより仕入単価の上昇が続き、採算面への悪化圧力が強まっている。売上額や業界の業況はおおむね横ばいで推移しているものの、コスト増の価格転嫁が進まず、慎重な動向が続いている。

・（埼玉県幸手市商工会）

製造業者に関しては、年末に向けて金融利率の上昇などの影響を受けて、金融公庫の相談も増えているが、設備投資ではなく運転資金の確保といった事業者が多い。今後も影響は続くと考えられる。

・（千葉県香取市商工会）

繊維関連の事業者は、試作受注量に対してメーカーが余っている状況で、今後の受注もさらに不安定になりそうな状況である。

・（神奈川県小田原市橘商工会）

半導体製造装置や工作機械、産業用ロボット関連の受注・生産が好調で、AI関連需要や非鉄金属の大型案件も寄与し、機械金属製造業の売上はやや増加、業況も改善傾向にある。一方、食料品製造業では米価格の高騰に伴う引き合いが増えているものの、原材料や包装資材、エネルギー、物流費、人件費の上昇が続いている。10月には飲食料品3，153品目が値上げされ、価格転嫁も進んでいるが、コスト増を吸収しきれず採算はやや悪化した。景気は緩やかに持ち直しているものの、円安や中東情勢による資材高、人手不足が経営の負担となっており、今後も価格転嫁と生産性向上が課題となる。

（山梨県身延町商工会）

町内でも事業継続が困難となる事業者がみられるなど、厳しい経営環境に置かれている事業者がある一方、比較的規模の大きい事業者では堅調な業況を維持しており、事業規模による業況の二極化がみられる。

（長野県佐久穂町商工会）

原材料費や電気料金、人件費の高止まりが続き、収益確保が課題となっている。自動車関連では、新型車の開発が鈍くなり金型業者の廃業が1件あった。水産関連事業者では、原材料価格や燃料費、包装資材費の高騰が続いており、収益状況は依然として厳しい。10月29日から桜えびの秋漁が開始され、今後の加工・販売需要の拡大が期待される。ただ、仕入資金や運転資金の不足から融資相談も複数見受けられ、資金繰りに苦慮する事業者がみられる。

（静岡県静岡市清水商工会）

製造業関連の事業者は、天気の良い日は、売上が増加する。資材の仕入単価が上がっているが、材料・製法も変えず頑張っているが、材料費の高い商品は見直しをしている。繊維工業関連の事業者は、同業の加工業者が減ってきている。突然、知らない廃業した加工業者分の仕事が回ってきており、仕事量は増加している。この業種は、事業承継も厳しくなっている。機械金属製造業関連の事業者は、仕入単価が上がり続けている。業界としては、元請業者が処理できなかった仕事が回ってきているようで今月も2極化（好調・不調）が続いている。自社は、今月は忙しかった。

（滋賀県大津北商工会）

食料品の売上は値上げで前年より増加するも、原料価格の高騰が依然として続き、収益は前年並み。年明けから500円/kgの値上げが控えているものもあり、今後の利益確保はさらに厳しくなる見込み。繊維工業では従業員の定着率が低い事に加え、最賃引上げで社保扶養の範囲から外れることを懸念した「働き控え」の影響が顕著に表れている。扶養範囲に関係なく働ける従業員はわずかであるため、人繰りに苦慮している事業所が多い。機械金属では最賃の上昇及び物価高騰を踏まえ値上げ交渉をしていた先が多かったが、希望額通りとはいかず依然業況は厳しい。人手不足による外注依存が進み、製造コストがさらに上昇している事業所もあ

（鳥取県鳥取市西商工会）

前回と変わらなく、仕入単価が上昇しており、厳しい状態となっている。江田島市の場合はシルバーウィークが終わり、その反動が見られる。観光シーズンである11月に期待する声は大きい

（広島県江田島市商工会）

設備投資をしたいが、物価高騰で資金が不足しているの加えて融資金利が高く厳しい状況になっている。

（愛媛県内子町商工会）

包装資材等の高騰が続いており利益を圧迫している。免税事業者において、消費税1%になった際の利益減少を気にされている。値上げを今年実施している更なる値上げは難しい。

（佐賀県基山町商工会）

食品製造業に限らず、令和8年熊本地震からの事業再建が求められる中、原材料費や包装資材費、エネルギー価格の高騰が続き、厳しい経営環境にある。価格転嫁による収益確保が課題となる一方、消費者の節約志向も強く、販売数量の伸び悩みが懸念される。今後は、コスト削減や生産効率の向上に加え、商品力の強化や販路開拓を通じた経営基盤の安定化が重要となっている。

（熊本県益城町商工会）

3.建設業

＜改善傾向を示すコメント＞

建設関連の事業者は、公共工事や民間設備投資などの需要に支えられ、受注は概ね堅調に推移しているものの、資材価格や燃料費、人件費の高騰により収益面では厳しい状況となっている。また、慢性的な人手不足や高齢化により、技術者や作業員の確保が課題となっており、受注機会があっても対応できる案件量に限りが生じている。こうした状況から、省力化設備の導入や業務効率化に向けた取り組みへの関心が高まっている。

（茨城県阿見町商工会）

売上は好転しており、受注が安定していることが要因となっている。材料仕入や外注費が軒並み上昇しているが、世界的なインフレ傾向にあることで受注価格に転嫁しやすい状況となっている。懸念材料としては、従業員や外注先の人員の確保であり人手不足は深刻化してきている。また、借入金利が確実に上昇しており資金手当ての際の不安材料となっている。

（埼玉県入間市商工会）

人手不足や若手社員の定着など人材面で苦慮している。また資格保有者の育成が進まず事業に支障をきたしている。公共工事はひと段落したものの、民需が依然好調であり、業界全体としての業況は比較的安定している。

（島根県隠岐の島町商工会）

＜悪化傾向を示すコメント＞

建設業関連の事業者は、物価高騰の影響のため、工期内での仕入れ、経費負担が増加するなど、採算や資金繰りに影響が見られる。

（北海道新ひだか町商工会）

受注量は前年を上回っています。しかし、燃料費の再高騰や資材価格の上昇、労務単価の高止まりが利益を強く圧迫しています。前年以上に採算確保が困難な「増収減益」傾向にあります。コスト増への警戒感から先行きは不透明です。

（岩手県岩手町商工会）

全体として、資材価格や人件費の上昇が経営を圧迫しており、受注を確保できても利益を出しにくい状況。

（宮城県みやぎ仙台商工会）

一定の受注は確保されているものの、仕入価格や人件費の上昇が収益を圧迫しており厳しい状況が続いている。

（秋田県ゆざわ小町商工会 稲川）

紅葉シーズンの本格化に伴う店舗や別荘の改修・補修工事がピークを迎え、施工需要自体は引き続き高水準を維持しました。しかし、1日からの最低賃金改定を機に、職人の人件費や下請け労務単価の上昇圧力が一段と強まりました。高止まりする資材費に加え、この労務費増を民間工事等の見積もりに十分反映しきれない「価格転嫁難」が追い打ちをかけ、粗利益率の押し下げが深刻化している。

（栃木県那須町商工会）

工務店において10月に市内事業者向け住宅リフォーム工事助成制度の第3期募集があり引き合いは増加したものの、予算終了によりすぐに締め切られたため効果は限定的であった。また、人件費の上昇及び人手不足の課題が継続しており失注するケース発生しており業況は悪い

（東京都福生市商工会）

利益率の高い元請の事業が少なく、資金繰りは良くない。職人への人件費を確保するため、下請や人工出しであっても積極的に受けている。

（新潟県新潟にしかん商工会）

建設関連の事業者は、建築資材価格の高止まりや慢性的な職人不足に伴う労務費の継続的な上昇のため、受注案件の採算確保が困難な状況になっている。民間設備投資や個人住宅のリフォーム需要は物価高を背景に慎重姿勢が定着しており、公共工事等の下支えはあるものの、労務単価の上昇分を受注価格へ十分に反映しきれず、利益率の低下が懸念されている。

（富山県上市町商工会）

建設資材価格や人件費の高騰に加え、慢性的な人手不足や職人の高齢化が経営を圧迫している。価格転嫁も十分に進まず、売上はおおむね横ばいで推移する一方、採算や資金繰りはやや悪化しており、依然として厳しい経営環境が続いている。

（山梨県昭和町商工会）

建設業の事業者は、資材価格の高止まりや労務費（人件費）の上昇に加え、天候不順（長雨や台風等）による屋外工事の遅れや慢性的な人手不足による受注制限が生じているため、採算がやや悪化している。

（長野県山ノ内町商工会）

建設業において塗装業をふくむ全般の業種で雨天が続いた事による工期の遅れ、その後の計画の詰まりや請求がずれる事による資金繰りへの不安などの意見が挙げれた。物価高騰により新築物件が少ない事や職人等の人材不足も顕著で工事が進まないケースもある。

（静岡県浜名商工会 雄踏）

建設業関連の事業者は、10月の売上増は、9月の長雨のせいで、完成が10月になったことが原因。10月からエクステリア製品の仕入単価が上がった。公共工事が低調。

（滋賀県大津北商工会）

リフォームや公共工事の受注は安定しているものの、資材の仕入れ価格高騰に歯止めがかからず、利益を圧迫している。

（京都府京丹後市商工会）

業況や採算は上向きではあるが、材料費や労務費の上昇、人手不足が経営の負担になっている。人材確保・業務の効率化を進める必要があり、収益の向上を図ることが求められる。

（大阪府羽曳野市商工会）

一時のナフサ不足のころと比較すると、概ね資材は安定的に入ってくるようになっているが、価格は高止まりとなっており、また、特に人手不足は深刻な状況であり、受注量の拡大が円滑に行えていない。

（奈良県斑鳩町商工会）

業況的には前年と比較し大きく変わらないが、新築の動きは鈍い状況が続いており、売上はやや減少している。物価高騰による資材の高止まりに加え、設備更新にも苦慮している事業所が見られる。

（鳥取県鳥取市西商工会）

建設業の売上・受注は総じて前月並みで推移している。新築需要は少ないが、住宅や店舗の改修・リフォーム需要は安定している。県外案件への対応や同業者との連携で受注確保に努める動きもある。一方、資材価格や人件費は高止まりし、公共・民間とも材料仕入額が増加して利益は減少した。職人の確保や工期調整も課題で、価格転嫁が進まなければ収益への影響が懸念される。

（岡山県みまさか商工会 勝央）

水道工事、エアコン工事の他公共工事も増えているために仕事の件数と忙しさは増加傾向にある。ただし工事にあたっての材料費の価格上昇と人件費の増加で全体的には前年とほぼ変わらないという様子

（香川県三豊市商工会 豊中支所）

地域の建設業は、公共事業や修繕工事が下支えしているものの、住宅着工の低迷等により売上は伸び悩んでいる。資材価格や労務費の高騰に対する価格転嫁も十分とは言えず、慢性的な人手不足も重なり、業況は悪化している。

（愛媛県周桑商工会 小松支所）

工事の需要はあるが、資材価格の高止まり、人件費の上昇が利益を圧迫、また相変わらず人手不足であり、雇用しても定着率が低くく、思うように受注ができない厳しい状況が続いている。

（福岡県古賀市商工会）

住宅設備関連業者は、今年度2度目の資材仕入価格の値上げにより、収益性悪化が懸念される。価格転嫁しなければ収益確保できないが、既に契約している顧客への対応にも苦慮している模様。

（佐賀県多久市商工会）

物価高騰や法改正などにより高単価な住宅が基準となり、新築着工棟数の減少など今後の見通しが厳しくなっている。

（長崎県壱岐市商工会）

物価高の影響により受注件数は大幅に減少している。加えて、大手事業者が新築からリフォーム事業への注力を強めており、今後はリフォーム分野においても競争が一段と激しくなることを懸念している。

（大分県佐伯市番匠商工会）

公共工事等も活況で売上が伸びているが、物価高騰、人件費の増加で苦慮している業者もある。

（沖縄県嘉手納町商工会）

4.小売業

＜改善傾向を示すコメント＞

中旬以降の紅葉シーズンの深まりに伴い、観光地沿いの土産物店や特産品直売所を中心に観光客数が回復し、売上が持ち直しの動きを見せた。一方で、最低賃金改定により店舗スタッフの労務費が増加したほか、仕入価格や光熱費の高止まりが継続。地元の日常向け店舗では住民の強い節約志向から価格転嫁が困難で、一部では観光需要を捉えた店舗との採算格差が拡大している場面も見られた。

（栃木県那須町商工会）

・食料品小売業について、物価高騰により、仕入高が昨年同月対比で上昇傾向にあり、売上も減少傾向にあるが、価格転嫁の成功や配達業務の増加等により、同等の採算を保っているのが現状。・耐久消費財小売業については、既存で取扱っている商品を利用し利益率の良い分野への販路開拓を行うことによる売上増加が見られる。

（香川県高松市中央商工会）

小売業関連の事業者は、仕入れ単価の上昇に対して販売価格への適切な価格転嫁を進めることができているため、客離れを招くことなく売上の増加へとつなげ、安定して採算を確保できている状況になっている。コスト高の環境下においても、消費者の理解を得ながら値上げを浸透させることで、着実に収益基盤を維持している。

（大分県中津市しもげ商工会）

＜悪化傾向を示すコメント＞

食料品小売業関連の事業者は、物価高騰の影響により、仕入れ価格が上昇したことにより、売上も増加傾向となり、採算等には影響は見られなかった。胎教消費財関連の事業者は、物価高騰の影響により仕入価格が上昇し、販売価格も上昇、売上に影響が見られた。

（北海道新ひだか町商工会）

衣料品小売業では、季節物の売れる時期だが、高齢客メインで年々客数は減少し売上も減少している。中東情勢の悪化の影響が続き、仕入れ単価の増は変わらず。食料品小売業では、米の仕入れ価格が6割減だが秋田はまだ高い方。7年産の在庫を抱える卸と持たない卸、新米を安く仕入れた産地の卸で小売単価が5kg1000円台から4000円台までバラついている。耐久消費財関連の事業者は、売上の低迷が続いており、状況は悪化している。今後は業種転換も含めて検討する予定である。

（秋田県かづの商工会）

物価高により、価格転嫁したいところだがなかなか転嫁に動けない。

（群馬県安中市商工会）

食品値上げで客単価は上がったが、客数は減少。仕入高を転嫁しきれず採算は悪化傾向。

（埼玉県毛呂山町商工会）

食料品は豪雨被害などの影響を受け、野菜など価格が上昇し、消費者事業者両者を圧迫している。耐久消費財についても世界的価格の上昇が続いており、小規模事業者は大手に対抗出来ない状況となっている。

（千葉県香取市商工会）

一般酒類小売業者において、市内で行われているプレミアム付き商品券の効果が継続しており、一定の売上が確保できているとのこと。また10月の酒税法改正により顧客の需要に変化が生じており、市場読みが難しい。

（東京都福生市商工会）

食料品小売業においては、米の価格が対前年比大幅に減少しているが、それ以外の物品の価格上昇傾向は続いており、消費抑制傾向は継続している。

（新潟県寺泊町商工会）

地域密着型の小売関連の事業者は、10月の食品等の相次ぐ価格改定に伴う地域住民の節約志向の強まりや買い控えのため、売上高の確保に苦慮する状況になっている。気温低下に伴う秋物・冬物商材への需要の立ち上がりは見られるものの、生活防衛意識から低価格志向が顕著であり、仕入単価の上昇分を店頭価格へ転嫁しにくく、採算の圧迫が継続している。

（富山県上市町商工会）

食料品小売業について、仕入価格は引き続き高騰している一方、秋の行楽需要や季節商品の販売などの動きも見られる。

（福井県福井東商工会）

衣料品小売業の事業者は、天候不順による来店客数の減少に加え、物価高に伴う消費者の根強い節約志向や買い控え、大型店への顧客流出が続いているため、売上高が大きく低迷し業界の業況が悪化している。食料品小売業の事業者は、相次ぐ仕入価格や野菜の高騰に対して価格転嫁が十分に浸透しておらず、生活防衛意識による買い控えや客数減少があるため、採算がやや悪化している。耐久消費財関連の事業者は、物価高や金利上昇を背景に高額商品の買い控えが進んでおり、仕入コストの上昇分を販売価格に十分に転嫁できていないため、売上高が伸び悩み業界の業況がやや悪化している。

（長野県山ノ内町商工会）

衣料品小売業関連の事業者は、気候に左右されており、ここ2・3日の朝夕の冷え込みで、お客様の動きが出てきた。食料品小売業関連の事業者は、10月の酒税の変更で、ビールの買い控えの反動によりビールの売上が伸びた。耐久消費財関連の事業者は、部品単価の上昇はあったが、商品単価は変化なし。

（滋賀県大津北商工会）

雑貨・小物等小売業では、コレクション需要やギフト需要で売上が上昇している。原材料等の上昇で仕入価格が上昇したせいで利益の改善には繋がっていない。

（大阪府羽曳野市商工会）

食料品小売業関連の事業者は、先月と変わらず仕入単価の上昇が続いており、売上はやや増加しているものの利益確保が難しく採算・資金繰りともに悪化傾向にある。消費者の節約志向も強く、業界全体の景況は先月同様厳しい状況が続いている。

（兵庫県新温泉町商工会）

賃金の上昇以上に物価が高騰していることもあり、消費者の購買意欲が低くなっていると感じている事業者が多く存在しており、売上が頭打ちになっている。

（奈良県斑鳩町商工会）

小売業全般では、地域応援券による押し上げや一部で売上増加が見られるものの、全体としては横ばいから微増程度にとどまっています。一方で、仕入価格・単価の上昇傾向が継続しており、収益の確保が困難な状況から採算の悪化が目立ちます。また、消費者が燃料費や食料品費への支出を優先する傾向があることや、恒常的な人手不足も重荷となっています。価格転嫁の進展度合いによる企業間格差も見られ、業務効率化や生産性の向上が喫緊の課題となっています。

（鳥取県米子日吉津商工会）

物価上昇による消費者の節約志向が続き、生活必需品を中心に購入単価は上昇しているものの、販売数量の伸び悩みがみられる。仕入価格や物流費、人件費の上昇に対して販売価格への転嫁が難しく、採算確保に苦慮する事業者が多い。年末商戦に向けた需要の回復が期待される一方、消費者の価格に対する慎重な姿勢は続いており、先行きは不透明である。

（岡山県岡山北商工会）

食料品等の度重なる値上げのために、また、全般的な物価高騰の中に、耐久消費財を購入する機会が減ったと感じられるが、法改正のあるエアコンの販売だけは、売上増加が続いています。

（福岡県久留米南部商工会）

食料品小売業は、大きな変動はない。野菜の高騰があり一部買い控えがあるものの、物価高騰支援の商品券利用もあり売上は維持している様子。

（佐賀県多久市商工会）

物価高による消費者の節約志向が続き、必要なものに絞った買い物や低価格商品の選択がみられる。仕入価格や物流費等の上昇もあり、売上・利益の確保が難しい状況にある。

（長崎県松浦市福鷹商工会）

10月の小売業は、前月から大きな変化はなく、売上・客足ともにおおむね横ばいで推移している。一方、10月からの食品等の値上げにより、仕入価格の上昇や消費者の節約志向が懸念され、収益確保が難しい状況が続いている。

（熊本県多良木町商工会）

離島エリアでは台風や高波・時化の影響を受け、船便の欠航・抜港が相次ぎ、食品や商品が届かない状況があります。前年同月に比べ売上額も減少傾向にあり、仕入単価などは高騰しているため、採算はやや悪化傾向にあります。業界全体としても消費者の節約志向を感じる事業者が多く、顔色を伺いながら価格転嫁を進めてられている事業者もいる一方で、値上げに踏み切れない事業者も多くいます。

（鹿児島県知名町商工会）

5.サービス業

＜改善傾向を示すコメント＞

宿泊業を含む観光業は、台風等の影響により一時的に集客が落ち込む時期もあったが、その後は回復傾向にあり、足元の客入りはゴールデンウィークを上回るなど、比較的堅調に推移している。今後は、地元景勝地の再開発や民泊施設の整備・開業などにより、地域の観光資源や宿泊機能の充実が期待される。

（長野県上松町商工会）

理美容に関しては、特に大きな変化がなく、不変である。天気に左右されない仕入れ材料や予約制ということもあり来客数は安定している。しかし、従業員を雇っている事業所は、賃上げの影響から人件費の高騰がうかがえる。今のところ、資金繰りに大きな影響はないものの、賃上げが続くことを考え、来客数増加に向けたPR等を検討している。

（三重県伊勢小俣町商工会）

旅館業は、九州の復興キャンペーンの影響もあり予約（売上）増加傾向。また県外からのゴルフ利用者の宿泊も増え、やや好転している。

（佐賀県多久市商工会）

＜悪化傾向を示すコメント＞

宿泊や飲食業を中心に、行楽需要による客数・売上高は前年を上回っています。しかし、電気代や食材費の再騰に加え、人手不足や賃金上昇が経営を強く圧迫しています。需要はありますが、欠員や人手不足による機会損失などにより、手元に利益が残りにくい傾向が前年以上に顕著となっています。

（岩手県岩手町商工会）

旅館：台湾・韓国のインバウンドツアー客は好調で庄内空港発着の台湾からの団体利用増加。しかしながら人出不足は依然続いており短期アルバイトで対応中である。洗濯：原油高に伴い、集配車のガソリン代、ボイラーの灯油代、ドライクリーニングの溶剤や包装ビニール袋、プラスチックのハンガーなど全てが値上がり続けているため、値上げを検討している。キャッシュレスの利用者は増加傾向にある。理・美容：売上等に関してはほぼ平年通り。暖房のつけ始めが前年より早いので、電気代等へ影響が不安である。

（秋田県由利本荘市商工会）

サービス業では、10月期の売上は業種によって明暗が分かれた。洗濯関連では、大口取引先の研修時期変更の影響により、前年同月比で30%前後の減少となった。一方、理・美容関連では、七五三や運動会などの季節行事や天候に恵まれたことから、売上は前年同月比で増加した。仕入面では、資材価格の高止まりや一部資材の在庫不足が続いている。理・美容関連では、12月からの価格改定に向け、顧客への周知を進めている。

（茨城県守谷市商工会）

紅葉シーズンの本格化により宿泊や飲食、観光体験などのレジャー需要が年間最大級のピークを迎え、稼働率は高い水準を維持した。しかし、1日からの最低賃金改定を受け、人件費負担の急増が利益を圧迫。高止まりする食材費やエネルギーコストに加え、予約サイトへの支払手数料もかさみ、繁忙期でありながら手元に粗利が残りにくい構造が続いている。今後は、少人数で回せる自動予約や決済ツールの導入や来訪客を自社直販（自社予約・EC）へ誘導し手数料コストを抑えるなどの対応が必要となってくる。

（栃木県那須町商工会）

日帰り観光客が増加傾向にある一方で宿泊施設では人手不足や人件費高騰など多くの課題も抱えており、慢性的な人手不足によって受入れを制限せざるを得ないケースもあると伺っている。

（群馬県みなかみ町商工会）

サービス業全般として、好調では無いが不景気といったイメージも無く至ってニュートラルな立ち位置で静観しているような状況にある。行政の実施しているプレミアム付き商品券事業による経済効果や、消費減税による景気への後押しなど今後の明るい見通しとして期待をよせている。懸念材料としては、インフレの影響で仕入、資材等の値上がりが続いていることと、人件費の高騰、金利上昇による資金繰りへの影響がある。

（埼玉県入間市商工会）

理髪店関連の事業者は、既存客の来店周期が長くなり年々売上が減少しているが、施設への出張等で売上を確保している状況である。

（神奈川県小田原市橘商工会）

旅館業に関して、天候不順もあり、予約が伸び悩んでいる事業者が多い印象であった。単価を上げている事業者も多いが、物価上昇のペースがそれを上回っているので、採算が悪化している事業者も見受けられる。

（新潟県妙高市商工会）

旅館・宿泊所は10月の三連休に高い稼働率を記録し、初日の推定稼働率は96.4%、宿泊単価も前年比2.3%上昇した。売上額はやや増加し、業況も改善傾向にある。一方、洗濯業は衣類のカジュアル化や家庭洗濯の普及、節約志向による利用控えが続き、売上は横ばい、採算と業況はやや悪化している。理美容業も美容室市場が前年比5.9%減と縮小する一方、理容室市場は0.7%増と堅調だが、売上は横ばいで採算はやや悪化した。各業種で光熱費や人件費などの負担が増しており、宿泊業では料金改定により採算や資金繰りがやや改善したものの、コスト増を十分に吸収できていない。

（山梨県身延町商工会）

物価高騰や各種サービスの値上げにより家計への負担が増加していることから、美容関連など生活必需品以外のサービスへの支出を控える傾向が見られ、利用頻度の減少につながっていると考えられる。

（岐阜県高山西商工会）

観光関連事業者では、インバウンド需要への対応状況によって業績の明暗が分かれ、売上の二極化が顕著となっている。一方、地域住民を主な顧客とする事業者では、人口減少による市場縮小の影響を受け、売上減少傾向が続いている。また、コスト上昇局面においても価格転嫁が十分に進まず、収益悪化を招く構造的課題が顕在化している。

（静岡県東伊豆町商工会）

旅館・宿泊所関連の事業者は、シーズン料金は９月末で終了したが、工事関係者の宿泊は若干持ち直した。リネン類のクリーニング単価が上昇しているので、連泊宿泊者にはシーツ替えを行わないことにした。最近は、夏以外は売上が伸びない。洗濯業関連の事業者は、季節ものの衣替えが進んでいない感があり、天候に左右されている。仕入単価上昇により収益を圧迫している。理美容業関連の事業者は、固定客中心の商売となっている。

（滋賀県大津北商工会）

宿泊・観光関連事業者はインバウンドや国内観光需要の回復により来訪者が増加している。一方で人件費や光熱費の上昇、人材確保の難しさが経営課題となっている。

（京都府和束町商工会）

サービス業では、天候や季節需要の恩恵（降雨による乾燥機稼働増や冬物寝具の洗濯需要増）が見られる業種がある一方、常連客の減少などにより売上減少が続く業種もあり、業況は二極化しています。また、原材料や消耗品等の仕入単価が高止まりを続けており、採算の低下が目立ちます。行楽シーズンに伴う外出機会の増加に期待感はあるものの、需要変動やコスト高に対応した単価の見直しや集客力の強化が引き続き求められています。

（鳥取県米子日吉津商工会）

宿泊業は観光シーズンが終わる時期となるが、個人の旅行客、ビジネス客の入り込みが好調であり活況が続いている。全業種の共通の課題として人手不足が解消されていない。

（島根県隠岐の島町商工会）

秋の行楽シーズンを迎え、観光や外出関連の需要には持ち直しの動きがみられる。洗濯業や理美容業など日常生活に密着したサービスでは、物価高による消費者の節約志向が影響している。人件費や光熱費、材料費の上昇も続いており、価格改定と顧客離れのバランスが経営上の課題となっている。

（岡山県岡山北商工会）

固定客がついている事業所は安定しているが、そうでないところは業績が安定していない中で、物価高騰の影響を受けているため不安が拭いきれない状態になっている。

（長崎県西そのぎ商工会）

災害や天候によりイベント等が中止になり宿泊者が減少。

（熊本県苓北町商工会）

・原油価格の変動に大きく左右され、先行きが不透明であり、引き続き厳しい経営環境が続いている。今後の原油価格の動向次第では、さらに厳しい状況になることも懸念される（クリーニング業）。・売上の減少に加え、物価高騰の影響で来店頻度が低下している状況が見受けられる。美容サービスは生活必需品と比べて支出を抑えられやすく、カットの間隔が長くなるなど、顧客の節約志向が強まっている。実際に、髪が伸びた状態で来店する顧客も増えており、業界全体としても厳しい経営環境が続いている（理容業）。

（鹿児島県日置市商工会 日吉支所）